一月號

婦人運動

第6卷第1號

職業婦人社發行

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可（每月一回一日發行）昭和二年十二月三十日印刷納本 同三年一月一日發行 第六卷 第一號

謹賀新年

服部時計店

新刊無產社パンフレット

◇社會主義大意
堺利彦著（改版）……價十錢

◇社會主義は毒藥か砂糖か。貧富の始まりから勞働者の天下までかんでふくめるように、此の一冊の中に說き盡してある。誰の爲に危險なのか、資本制度の時代、資本家と勞働者、都會と農村、地主と小作人、資本制度が壞れる、帝國主義、世界戰爭其他。

◇なぜなの
ミウレン著 荒畑寒村譯 無產者童話……價五十錢

◇プロレタリヤの少年には、プロレタリヤの生血の滲み出た、現實の、躍動する、生命のこもつた敎訓を與へればならぬ。本書は實にその童話だ。美しい挿圖、優しい、雄々しい文學は少年の心をとらへずにはおかない。

◇ジエルミナル
ゾラ原著 堺利彦譯……價七十錢

◇虐げられた群が頭をもちあげ、人間生活の矛盾と不合理をあばき立て、新社會建設に志して來た。木の芽立ちのように、全世界の彼方、此方に！本書は坑夫の生活を中心に雄大、深刻、悲壯、痛烈を極めてこの間の消息を描き出したもの。

◇新ロシアの婦人
近藤榮藏著……價十錢

◇社會主義の國『新ロシヤ』に於ける婦人の生活、社會的地位、戀愛關係、結婚生活、勞働生活等の各方面にわたつて赤裸々に、しかも名文をもつて描かれたもの婦人國有說の眞相、社會主義國の婦人の狀況を知る上に重要なものである。

◇婦人問題の本質
堺利彦著……價十錢

◇婦人の過去、現在、未來に亘つてマルクス主義の立場より平易、明解に說き明したもので、特に我が國古代の婦人の地位變遷より近代の婦人を論究してある等他類書の追隨を許さない。婦人問題文献の僅少な今日各階級の人々に一讀を薦める。

◇ロザの手紙
堺眞柄編……價十錢

◇ロザ・ルクセンブルグはドイツ共產黨を創立した有名な婦人で、一九一九年一月十五日軍閥の暴徒の爲めに虐殺されたのである。本書は革命家として、學者として偉大な此の人が、一面に於て如何にやさしい性情を有したかを知る最もよいものである。

◇社會主義學說大要
堺利彦著……價三十錢

◇マルクス學を簡單に理解する爲に最も便利な手引書である。無產階級の獨立の學問、唯物史觀の解說、歷史進化の事實的說明の三章に別れ、唯物論と唯心論、唯物史觀と唯心史觀、唯物史觀の要領等殺も平易親切に說述されたものである。

□圖書目錄無代進呈、（但し二錢切手封入のこと）月刊『赤い星』は一部三錢年三十錢

發行所 東京麹町八ノ二〇 振替東京二四六二六 無產社

第六巻第一號 婦人運動（一月號目次）

婦人運動

一月號



婦人運動の單一體系の新提唱

高群逸枝

一

現在、ブルジョア婦人團體であると、プロレタリア婦人團體であるとを問はず、それらがもつ主張、綱領を比較して見るならば、そこにどれほどの違ひがあるだらうか。兒童及び母性保護の問題、不平等法律の問題、參政權の問題、深夜業の問題等々。その何れもが、それを掲げてゐる。ブルジョアらしい處もなければ、プロレタリアらしい處もない。すべてが「婦人」の問題である。それにも拘はらず、それらの團體は、なぜか分裂してゐる。ブルジョアとプロレタリアの二つに分れた上で、さらにそのプロレタリアが三つにも分れてゐる。かう分裂しては、まことに心細いことであるが、さればといつて、此れは不合理だ、矛盾だと、漠然と叫んでも、かう分裂したのには、それ相應の原因があつてのことだからいかんともしがたい。私共はまづ、それでは何故に分裂したかといふことから究めてかゝらねばなるまい。

何故に分裂したが。大正八年に、平塚、市川、奥の諸氏が、新婦人協會を起した。我國婦人運動としては、この協會の運動が、いまから思へば、どうやら單一的なものだつた。この協會の運動が、そのまゝ時代意識を受け入れ、自覺し、そして更生しつゝ、今日に及んできたのだつたら、或は最も自覺的な意味をもつところの、單一的な婦人運動の團體であり得たらうと思はれる。

けれどそこへ、山川菊榮氏等の無產婦人意識が這入つてきて、「政治運動のごとき、それはブルジョア婦人のもので、ブルジョア婦人共が、參政權によつてかちうるであらうところの、形式的な權利などは、自分達無產婦人にとつては問題以外だ」と云つた。

それと共に此等は、婦人の團體といふ一つの特殊的な團體を極力敵視し、ブルジョア婦人とプロレタリア婦人、なほ適確にいふならば、ブルジョアとプロレタリアの二つの階級へ「婦人」を分裂せしめた。

かくて、特殊的な意識即ち據り所を失つた婦人達が、その所屬團體の分裂につれて、更に幾つもに分裂していくことは至極あたり前であらう。

大正十一年の九月、大阪市天王寺公會堂で開かれた、日本勞働組合聯合創立大會が、總同盟派と組合同盟派、即ち集權的合同派と自由聯合派との二つに決裂した場合にも、婦人はどうであつたらうか。その各々の所屬派の分裂と共に分裂した。

集權派と自由派とでは、その革命的原理において、天と地の違ひがある。もし婦人が自らの婦人意識に照らして見て、自らの婦人意識を擁護するものは集權派であるか、但しは自由派であるか、それの見究めがつくならば、かうまで無見識ではなかつたらうに。

然し、婦人のかうした無見識は、それが組合運動であつた間は、どうやら明るみには曝露されなかつた。けれど今日のやうに、無產階級の政治的進出とやらで、それに所屬の、盲目的婦人が、まるきり同じ主張や綱領を掲げて、分裂してゐる姿は悲慘である。

これに就て、私は我國の婦人達が、あまりに早く、無產意識の前に、盲目的になり過ぎた。自らの婦人意識に就ての檢討を經ないで、直ちにかれへ漠然と馳せ加はつた。玆に過ちがあつたとかう思つてゐる。

元來、婦人が無產階級の中に、自己解放の世界を見出すといふことは、婦人のもつ特殊的な機能と性情、即ち婦人意識

を無産階級が理解し、その自由を無産階級が擁護するといふ信頼が婦人に生じたによるので、それは決して婦人が自らの特殊的な意識を投げ捨てたことにはならぬ。故に無産階級の內部に、幾つかの指導原理、ことに天と地の違ひをもつ指導原理がある場合、婦人は卽ち、自己の意識に基づいて、その各々を批判し、その意識のよりよく生かさるゝ世界をもとめねばならぬ。その世界において始めて婦人は特殊的な自守の意識、卽ち性別的意識から解放されることができるのである。それにも拘はらず、むやみに婦人の性別的團體を排擊することにのみ急であり、そしてむやみに無產婦人はその各々の所屬團體につけと云つたのでは、何が何やら、まるで分らぬ。

一二年前の本誌に、山川菊榮氏の意見として、婦人の特殊的運動は排擊されねばならぬ。婦人は各々の所屬團體の內部にあつて、その各々の所屬團體へ働きかけて行けばよいといふ意味のことが出てゐた。そのとき私は云つた。「然し、それに就ては、我々は婦人の據つて立つべき革命的指導原理を、此の際大いに檢討したい。なぜなら各團體への漠然たる所屬は實際においては單なる四分五裂を意味するからだ」と。

早く云へば私は婦人は集權派につくべきか、自由聯合派につくべきかを問題にしてゐた。それによつて婦人の進むべき道は決せられるのである。

二　婦人意識とは何か

それに就ては、婦人意識とは何かといふ問ひに對して、考へて見る必要がある。

婦人意識とは何か。從來これに、二通りの定義がある。テレサ・グリータによると、「性的無差別を基礎としての社會組織の建設を希求する意識」とある。この意識による者達は、婦人の社會的地位とか、人としての權利とかに置きをおき婦人の特殊的機能とか性情とかを輕く見る傾きがある。

前代にあつては「婦人と經濟」の著者、シヤアロツト・ギルマン夫人の如きがそれで、彼女達は、その性的無差別觀の

當然の結果として、婦人のもつ特殊的性能を、厄介なことに思つた。中にも、小兒保育に關する問題が彼女達を惱した。で、彼女達は、小兒保育の社會化といふことを思ひついた。さうすれば、婦人は男子と略々同じ時間をもち、境遇をもち勞働をもつことができる。今日、マルクス主義婦人達がよくいふ小兒保育の社會化といふことは、即ち前代の、此の中性的女權論客達の衣鉢を受けついだものに外ならぬ。

此に對して、反對の立場から、勇敢に抗爭した人、それはスカンヂナビヤのエレン・ケイだつた。エレン・ケイが定義する婦人意識とは何か。「それはすべての平等の上に、なほ特殊を承認し、それを生かすために形づくらるゝ社會を目ざす意識」であつた。エレン・ケイは、戀愛と母性愛との生かさるゝ社會をもとめた。つまり、この性別的、特殊的意識を以て婦人意識の中心とし、婦人の社會的地位とか、人としての權利とかには、あまり重きをおかなかつた。

以上に述べたやうに、婦人意識には「無差別的意識によるもの」と「特殊的意識によるもの」との二通りの定義と立場がある。で、自分達は此のうち、何れを以て、自分達の據るべき「婦人意識」と見做したならよいだらうか。

私は答へる。それは後者であると。性別的特殊的意識こそ、即ち婦人意識であつてこれがなかつたなら、事むづかしく、婦人意識とか、婦人運動とかいふことはない。そして單に、無產者であり、ブルジョアジーであり、百姓であり、町人であるのみだ。

勿論、特殊的要素のみが、婦人の全部ではない。けれど自分達婦人は、社會に對しては、この特殊的要素のみを、特に問題にして差支へない。何となれば、その他の要素は一般的な、普遍的な要素である。私共が特にそれを問題にしたくても、いつかは社會が有機的にそれを引き出す。故に、婦人意識とは何か。婦人の特殊的性能を中心の意識であるといふことができる。

原始時代にあつては、婦人は小兒保育の自由を有してゐた。それは一部落が協同して、婦人のさうした自由を擁護したからである。即ち、そこでは小兒保育といふことは、部落の協同問題だつたし、その尖端に母性がゐて、自由に、心おき

なく、その子供を育てた。即ち部落は、母性を選手としてその子供を育てさせた。母性の自由は、かくして十分に生かされてゐた。これを小兒保育の社會化なるものと比較して見ると、こゝでは小兒保育の選手を母性とせずに、他の職業的保姆を以てそれに當てる。それがどれほど、不自然であり、不合理であるかは、一寸考へただけでも分らう。

さて、原始時代にあつて、このやうに、小兒保育の自由を有してゐた婦人を、やがて社會は、

その子供は女よ、父親のものだよ
たゞお前はそれを生み
そして育てるための雇はれ人だ

といふ風に壓迫しだした。もはや、小兒保育の問題は、母性愛の自由によつてゞはなく、婦人の職業と見做されてきたかくて家族制度が、女のさうした職業を監視するために設けられた。これは何に基因したらうか。私有財産と、その維持とを、社會が必要としたためである。女は父親の有する私有の財産を相續せしめんがため、父親のために、父親の嫡出子を生み出さねばならなかつた。そして父親のお氣に入るやうに、父親の子としての其の子を、育て上げねばならなかつた處が、現代では、どうであるか。多くの婦人は、小兒を拋棄して、外に出て働らかねばならぬやうになつてきた。それは資本主義經濟制度の結果である。で、コロンタイは、これを小兒保育の社會化への萠芽だといつてゐる。婦人はそんなにも忙がしくなつてきたから、その小兒は社會が引きとつて、保育してやらねばならぬと。即ち、次の社會では、その保育は社會が引き受けるやうになり、婦人達は自由に勞働し、自由に遊び、自由に勉强したりすることができるやうになると。

けれど、婦人は、曾て家庭内における小兒保育の職業化を欲しなかつた。だが、それかと云つて、小兒保育の拋棄をも社會化をも欲しない。婦人はたゞ、小兒保育の自由を欲するのみである。

また、社會の立場から見ても小兒保育の選手として、その母性を選ばず、他の職業的保姆を選ばねばならぬといふこと

は、ずいぶんと可笑しい話ではないか。

けれど、それにはそれ相應の原因がある。今日でも、資本主義工場で、これに類似の施設をしてゐる。例へば小兒預り所を設けるとか、保姆をおくとか。そしていふには「我々はかくの如く母性の立場を擁護してゐる。」けれど、もし彼等がそれほど母性を思つてくれるならば、いつそのこと、母性をしてその子供を心おきなく育てさせて呉れたならよからうにそれは出來ない。なぜ出來ないかといへば、母性を擁護するとか、何とかいふのは、口先きだけのごまかしで、その實は、自分のためにしてゐることだからだ。生産第一主義であるからだ。

これと同じやうに、生産第一主義をモットーとするマルクス主義社會が、小兒保育の選手として、その母性を選ばず、他の職業的保姆を選ばなければならぬ理由もまた玆にある。

これに就てコロンタイは「だが、自分で育てたい人は、自由にお育てなさい」と云つてゐるが、それは丁度、今日の家庭婦人に對して「勉強したいものは自由に勉强せよ」などゝいつても、到底不可能なのと同樣、不可能だらう。

無産階級の革命原理として、今日行はれてゐるものゝ中に、大まかに分けて見れば、マルキシズムとアナーキズムとがある。前者は生産主義であり、後者は消費主義である。前者は唯物主義であり、後者は人間主義である。前者は集權主義であり、後者は聯合主義である。前者は本能とか本能の自由とかを嫌忌し、若くはそれを輕く見てゐる。後者は本能の自由を擁護することを以て第一としてゐる。そのためにこそ、經濟的裏づけが必要だとしてゐる。

かう書きならべただけでは、あまりに抽象的で、概念的であるが、兎に角、今日、集權派と聯合派との二つの革命原理があるといふことは、誰にもはつきりしてをることである。

集權派の豫想する社會は、中央部によつて統制される社會で、聯合派によつて豫想される社會は、自由共産村落を單位の聯合社會である。一は集權を以て臨み、一は協同を以て當る。

集權派にも、色々あつて、日本でいへば、日和見主義があり、折衷主義があり、小兒病理論拘泥主義がある。然し、そ

れらのすべてを通じての特色はその各々のものが小社會をなしてゐるといふことである。つまり分裂してゐるといふことである。その各々の傘下には、極めて少數ではあつても、勞働者を集め、農民を集め、婦人を集めてゐる。それは何故かといふに、この組織は、上からの組織であり、いはゞ中央幹部の勢力爭ひを、事實上意味してゐるから、群雄割據の殿樣が、各々その下に、士農工商を從へて、睨み合つてゐるやうなものである。

これに反して、自由聯合派では、勞働者は勞働者、農民は農民。といふ風に、確かとした自己を以て、運動を進めてゐる。つまり、群雄割據の殿樣達の食ひ物になりたくない、殿樣連から支配されたくないといふ意識に目ざめた者達が、各々の堅固な團結をしてゐるのである。

勞働者は卽ちサンヂカリズムを、農民は卽ち農民自治主義を以て、各々結び合つてゐる。そして、共に、勞働者中の最優秀分子農民中の最自覺分子によつて、それは形成されてゐることを特色としてゐる。

で、婦人は何れによつて、その歩みを進むべきか。集權主義によるべきか。自由聯合主義によるべきか。

私はさきに、婦人意識に二つの定義があることを述べ、そして、無差別的意識を排し、特殊的意識を採つた。無差別的意識に立つ者達は、集權派に走り、特殊的意識による者は、聯合主義に基づく。とすれば、聯合主義こそ、我等婦人の據つて立つべき革命原理であると私がいはうとしてゐるといふ事は、もはや明らかになつてゐる。

私達は、例へば私達の、小兒保育本能ですらも、その自由を擁護する社會が望ましい。小兒保育の選手として、その母性を選ばず、他の職業的保姆を選ばなければならぬやうな必然的な組立てをもつ集權的社會を望まない。

この事は私共の他の本能であるところの、戀愛本能の自由に就ても、いはれることであるが、茲では長くなるから、省くことにする。

さて、茲において、私共の據つて立つべき革命原理の問題は決せられたのである。私共は、もはや迷ふことなく、一路その歩みを進めて行けばよい。

で、私はいふのである。すべての勞働婦人よ、サンヂカリズムへ。すべての農民婦人よ、農民自治主義へ。さて、さらにまた、それらの婦人達と一般の婦人達、所謂ブルジョア婦人であると、プロレタリア婦人であるとを問はず「婦人」といふ名のつく一般の婦人は、今日における政治的對策上、別に「婦人非政黨同盟」によつて、團結せよ！

かくて、婦人非政黨同盟とは何かといふことが問題になつてくるのである。

三 婦人非政黨同盟

婦人非政黨同盟とは何か。ブルジョア婦人たると、プロレタリア婦人たるとを問はず、いやしくも婦人であるものゝすべてが、「婦人」の名のもとに集まる團體であらねばならぬ。それは文字通り、政黨でない團體、政黨に屬しない團體である。いつたい政黨といふものは、それ自身罪惡の巣である。私にこんな經驗がある。それは私が私の故鄕で、小學教員をしてゐたときのことである。私はそこで裁縫を教へてゐたが、この裁縫教授といふものは、文部省が規定してゐるすべての教科目中、最も非科學的なもので、それといふのが、裁縫用布の不揃ひといふこと、それはつまり、富家の子と貧家の子に對する劃一的教授の破綻に基因するもので、此れにけ弱りました。その上句、村會に訴へて、それらの用布の幾分かを學校備品として購入して貰はうときめたのです。そして、それに取り掛りましたが駄目でした。然し、それは駄目ではあつたが、さういふ試みをしたおかげで、村會といふものがどんなものであるかを知りました。思ひの外それは紊亂してゐました。村會議員と稱する者共は何のことはない、何某政黨の中央部から操られてゐる犬で、その犬共が村政の中に食ひ入つて、むやみと食ひ荒してゐるのでした。

村の利益などゝいふことを、彼等が考へるものですか。彼等が考へてゐることは、黨の利益といふことでした。彼等は村費をその村のために支出することをいやがり、何とかごまかしては、それを黨へ差し出さうとしてゐるのでした。

私は思ひました。彼等はおもてむき、村民の代表者である。然し彼等が何某政黨に屬してゐるとき、彼等は事實上村の

彼等ではなくして、黨の彼等である——。

此れと同じことは、分裂せる婦人諸家に對しても申されませう。彼女達は、皆、同じやうな政綱を掲げてゐる。で、私はお訊ねしたい。そのお掲げになつてる政綱のために、あなた方はお起ちになつてゐるのですか。つまり、婦人のためにお起ちになつてゐるのですか。それなら、手を握り合つて、お進みになる方が、どれほど合理的であるか分らないではありませんか——

けれど、彼女達は、恐らく婦人の彼女達ではなくして、黨の彼女達であるだらう。黨といふものは、黨派運動といふものは、此のやうにも非實際的である。もしそれが婦人に食ひ入つたなら、婦人はそのために食ひ荒されてしまふ。それを避けるために、婦人は黨派に屬しない同盟を結び合はねばならぬ。そして、それはそれによつて、各黨派を監視すると共に利用することができるといふ意味をもつのである。

婦人がある黨派に屬したならば、婦人はその黨派から支配され、食ひ荒されるのであるが、もし黨派以外に、厳然とした勢力を保つてゐるならば、その勢力で、どんな黨派をも自由にすることができる。

婦人は卽ち、婦人に利益ある議案を掲げ、それを通過せしめる能力をもつ黨派を、臨時利用することができる。代議政治における「勢力」は資本でもなければ、勞働でもない。「一票」である。「一票」の持主たる婦人の團結は、大きな勢力であることを、私共は自覺せねばならない。

この非政黨同盟に就ては、色々まだ研究の餘地はあらう。けれど何にせよ此れが、今後の新しい政治行動として最も賢明なものであるといふことを、私は固く信じてゐる。卽ち婦人は、婦人代議士といふものをもつことなく、あくまでも民衆として、内部にあつて活躍し、そしてその活躍をして、實質的に、眞に意義あらしめねばならない。

代議政治はそれ自身、支配被支配を意味してをり、民衆が一たびそのワナにかゝるや、身動きができなくなる。で、代議政治の最後の一幕に登場する婦人としては、從來の政黨の惡弊にかんがみ、自らを極めて自由な位置におくといふこと

が肝腎であると思ふ。

もしそれ、婦人黨なる一黨を、婦人がもつといふことも考へられないことではないが、それは前途甚だ心細い。それによつて幾人かの婦人代議士を出したところで知れたものである。それに、それを支持する者共の間に、必らず分裂さわぎが起つたり、黨のもつ惡弊が醸し出されたりする。なぜなら、それは婦人黨といふ一つの黨派であり、それの支配でありその中央部、即ち幹部における私人の勢力爭ひを意味するものであるからだ。

四

或はマルクス主義者とか、それに類似の黨派主義者等は、此のいはゆる性別的、特殊的團體を目して、反動團體であると云ふであらう。

けれど、私は答へよう。婦人が「婦人」の名のもとに凝集したとき、それは即ち一個の革命的團體であり勢力であることを意味すると。何となれば「婦人」は被虐者であるからだ。革命を要求し、欲求しつゝある者であるからだ。例へば水平社の團體を目して、誰が反動團體であると云ひ得よう。

「婦人」は分裂してはならない。「婦人」は絶えず結び合つたまゝで、進まねばならない。

全國の婦人よ、團結せよ！

（附言、非政黨同盟の問題は、既に一般的にさへなつてゐる。埼玉の農民達は、既に旗上げをした。だがここに書いたこと、そして思想的に、勝手に單一づけたことは、ことはるまでもなく私一個の意見で、いつの日にか現はれるであらう、婦人非政黨同盟が、どんな立場と形をもつものであるか、それには此の一文は、全く無關係である。

無産政黨合同問題の暗礁

薄　茂　人

一

四つの無産政黨、勞働農民黨、日本勞農黨、社會民衆黨、日本農民黨の大會がおこなはれた。

四つの無産政黨は、今秋の府縣會議員の選擧戰ををはつて今や第五十四議會に當面し、又衆議院議員の總選擧を控へてゐるだけに、いづれの大會も、華々しいうちに、新興階級の意氣を示してゐた。それはブルジョアジーを、戰慄せしめないではをかなかつた。

大會の興味ある中心議題は、所謂無產政黨の合同問題に置かれた。何故かなれば、

四つの政黨の黨員、卽ち組織無產大衆は無産政黨の單一合同を、今、切實に要求しつゝあるからである。そして、此の要求をとりあげ、要求に押されて、先づ、勞農黨、日勞黨、の幹部は、各黨の大會に先立ち、無產政黨の全國的合同を提議するにいたつたからである。

然らば、無產大衆は何故に合同を要求しつゝあるか。黨の幹部は、何故に、此の要求に押され、此の要求を採りあげねばならなかつたか。

それは簡單に、こゝに答へ得る。それは、第一にはブルジョアジーの狀勢、第二には無產階級運動の狀勢、此の二つによつてかゝる無產大衆の要求が必然に昂つたにすぎない。

第一のブルジョアジーの狀勢は、賃銀切り下げ、時間延長事業縮少、失業者增加、生活難、等々、斯う言つたあらゆる犧牲を、無產大衆に強制することによつて、わがブルジョアジーは、やつと安定を得てゐる狀態にある。從つてブルジョ

アジーは、無産階級を僞瞞し、或は、無産階級運動を極度に彈壓する反動的政策を執つてゐる。

第二に無産階級運動の狀勢は、如上のブルジョアジーの狀勢に對應すべく、戰鬪力の集中、戰線の力强い統整を必要とするにかゝはらず、その戰線は紊れ、力は極度に分散されてゐる。

政黨	主なる勞働組合	農民組合	婦人團體
勞働農民黨	勞働組合評議會	日本農民組合	關東婦人同盟
日本勞農黨	勞働組合同盟	全日農民組合	全國婦人同盟
社會民衆黨	勞働總同盟	——	勞働婦人聯盟
日本農民黨	——	全日農民同盟	——
其他地方政黨	官業勞働組合		

此の悲慘事を、運動の經驗のうちに學びつゝあつた無産大衆は、とりわけ府縣會議員の選擧戰に於て、戰線の混亂と、それによる無産階級運動の無力を、切實に彼等の腕と足に學び得たのであつた。

二

無産政黨合同論の根據は卽ちこゝに在る。

無産大衆は合同を欲する。此の欲求は、如上述べたやうな客觀的狀勢に基く、必然的な要求であるだけに、根强く力强い要求ではある。

しかしそれは、今日の狀勢では、いはゆる自然發生的な茫漠たるかたちに於て、要求されるに過ぎない。

もちろん、それは合同を要求する大衆の、大衆的規模に於ける、明確なかたちにまで發展しなければ止まぬものであり又せしめねばならぬものではあるが、今回の四つの無産政黨大會の合同案は、大衆の要求のかたちが、そこまでな發展してゐなかつたが爲めに、幹部によつて、合同の要求を弄ばされた觀がないではない。

いまこゝに、合同に對する各黨の態度をみる。

社民黨、勞農、日勞の合同提議は、日本共産黨の內輪喧嘩の現れで、とるに足らぬ。

日農黨、大會に於て決定した政黨統一調査會の調査の上で態度を決する。

日勞黨、勞農黨內の宗派的分裂主義者福本派を清算せよ、此の分裂主義を克服しなければ合同は實現出來ない。

勞農黨、福本派とは、吾黨の前衛分子である。これを清算
することは、出來ない。此の上は他黨との共同鬪
爭即ち、共同戰線の展開によつて合同を實現する

即ち各黨の態度は、合同から遙かに遠いところにある。切實なる大衆の要求から、遠く離れたところにある。合同を必然ならしめる客觀的狀勢に、そぐはない、喰ひ違つたところに在る。

しかし、こゝでは此の小論に取扱ふ範圍を、勞農、日勞の合同に對する態度をのみ問題とするであらふ。

三

すでに述べた如く、無産階級運動戰線の混亂、分立は、いかにして、何故におこなはれたか。

かゝる分裂の、最初の歷史に迄、問題を引き戻さねばならぬが、それは次ぎのやうなところに原因がある。

A、ブルジョアジーの反動政策、その一政策としての僞瞞と分裂の奏効、

B、若干の勞働貴族（官業勞働の如き）若干の勞働官僚（總同盟幹部の一部）の右翼的結成の成功、

C、左翼の指導精神（宗派的分裂主義）と戰術の誤謬、

D、これら三つの相互的關係、

當時の所謂「左翼」――嚴密に言ふならばその一部――は、彼等が一定の發展段階に達したる大正十四年末から、第三インタナショナルと對立し、しかも此の事實を大衆の眼鼻から隱ぺいしつゝ、左翼的言辭、行動によつて自からの姿態を粉裝し、以つて「結合する前に、先づ分離せよ」といふ。即ち分裂主義の教理を指導理論として、あらゆる無産團體を分裂せしめた强制執行官とはなつた。

かくて分裂は遂行された。

然るに、彼等の教理「結合する前の分離の原則」は、第三インタナショナル執行委員會によつて、最近正しく批判された如く、「マルクス主義思想同人の實現」といふ誤謬を犯すものである。

言ひ換へると、團體から分離して小集團となる、小集團から分離して數人となり、つひには一個の思想同人として、已れ一人となるところの徹底したる分裂主義の教理である。

更らに言ひ換へると、それは團體の大衆を排斥する、小集團の多數を排撃する、數人のグループを排除する。かくて已

れひとりが孤立するところの宗派的徒黨的排斥主義である。
その彼等は、今や勞農黨の獨裁官である。
從つて、彼等の合同への態度は、

一、黨の第一回大會より（大正十五年十二月第二回大會（昭和三年十二月）の直前十一月十六日迄は、日勞、社民、日農をエセ無産政黨と稱して徹底的に排撃し、その他黨大衆を部分的共同戰線に獲得し克服する、即ち他黨分裂の强制執行である。

二、十一月十八日突如提議せる—大衆の要求に押されて—合同提議は各黨の指導精神にこだはらざる無條件合同である

三、第二回黨大會の合同への態度は、共同戰線の展開による合同への實現である。即ち大體に於て十一月十六日前の、他黨分裂の指導敎理に復歸したものである。

かくの如く、依然として分裂主義の一線に低迷徘徊しつゝある。

それ故に、日勞黨は福本主義の清算を必須條件とし、勞農黨は合同への實際的具體的進行を拒否してゐる。
しかし、繰り返へして言ふ。
大衆は合同を要求する、無産階級運動の力の集中、戰線の統無は、ブルジョアジーの狀勢が必然ならしめる。
彼等が、いつまでも斯くてあれば、大衆の要求は明確なかたちを形成し、發展し、彼等の分裂主義を踏みにじつて進むであらふ。進まねばならぬ。（十二月二十日）

一般婦人界乃至社會運動としての婦人運動に對する希望（追加）

らいてう

我が國の婦人運動が漸くほんものゝそれらしくなりかけ婦人大衆が次第に團體的行動の訓練を得つゝある實狀は我が婦人運動の前途の光明を思はせるものです。のみならず吾婦人團體がいつとはなしに思想的に、階級的にそれ〴〵異る立場を明かにして來たことも一つの大きな進歩として注目すべきことでせう、しかし各無産政黨を支持する無産婦人團體に對してはその出現當初に於て期待するところがあまりに大きかつただけに、その後の動靜については奧むめおさんが本誌十二月號「無産婦人運動の進出について」の中で言つてゐられると同樣の不滿を私もゝたずにはゐられません。

臺所經濟の改造

賀川豊彦

私は是迄銀行界の恐慌狀態や或は物價の著しい變動なぞを見まして、之等不安の狀態を改造する唯一つの道は我國に於ける產業組合の確立殊に消費組合を確立するにありと思ふのであります。

消費組合では石鹼を作つて賣つてゐますが、十錢であります。この石鹼を、もしも諸君が市場でお買ひになつたならば大抵十五錢位は取られます。私共の石鹼は一個の原價が約八錢で出來て居るのであります。それを諸君に十錢に買つて貰つて居るから、吾々は約二錢儲かつて居る譯であります。けれども勿論消費組合は儲ける事は趣意でないからして、其の儲は皆消費組合を宣傳する爲に使つて居るのであります。消費組合で講演を催したり、ビラを撒くのは、皆諸君が石鹼なぞを買つて下さつた利益を其費用に向けて來て居るのであります。吾々は全然利益を離れてさういつた運動をやる覺悟で居るのであります。又私の着て居るこの洋服は四圓四十錢でありますが、之を外の人が見ると五十圓位に見える。勿論私の樣に所々皺のよつた洋服を着て滿足する人はさう多くないけれども、然し七八十圓の洋服を月賦で買つて着て居るのに月給は六十圓しか取つて居らぬ人がシヤン〳〵として居るのを見受けますが、私共はあれは洋服を着て居るサラリーマンではなくて、寧ろ月賦を着て居る連中と云つた方がよいと思つて居ります。さうした家庭がいつも夫婦喧嘩の絕え間がない。家庭に少し金が餘ると兎も角細君にも活動の一つ位は觀せて悅ばして上げることも出來るが、主人公が獨りで大きな顏をして、七八十圓の洋服と五六十圓の外套を着て居ると細君が袷を買ふ事も出來ずに家の中に引つ込んで居らねばなら

ぬことになる。誠に解らない話で、さういつた所から家庭爭議が起つて來るのであります。夫だから私共は先づ第一に家庭經濟といふものを確立せねばならぬ。是が爲すべきことの第一の急務であると考へます。

英國の消費組合運動は今より約百二十年前に始めたのであります。その時には株式組織で、株を多く持つた家が多く儲かつたからして結局株式會社になつて仕舞つた。處がそれでは駄目だ、之は多く買つた人が多く取る事にしやうといふので、今から八十四年前世界の織物の本場であるマンチエスターから約四哩離れた西北の側つこのロチデールと云ふ小さい町で、二十八人の勞働者が團結して一人前十圓づゝ合計二百八十圓の資金を出し合つて一つの組合をつくつたのが當今世界中に擴まつて居る消費組合運動の始めなのでありまして、今日之をロツチデール組合と申して居ります。吾々が日本につくらうとするものも矢張り此のロツチデール式消費組合であつて、資金を多く出す人が儲けるのでなく、組合から多く品物を買つた人、つまり其の組合を多く儲けさして上げた人程餘計に利益の拂戻しを受けるといふ點に非常な意義があるのであります。此の運動が段々擴がりまして、英國では只今組合員が四百六十萬人一年間の賣上高十七億圓利益二千萬圓宣傳費四百萬圓といふ夥しい利益を擧げて居るのであります

若しも日本の家庭が皆各團結するならば、組合で造つたものは賣れないといふ事はない、皆賣れるに極まつて居る。處が日本の只今の狀態は造つたものが賣れ殘る、銀行から借りた金は返せない。そこで銀行が潰れて會社が倒れ恐慌が來たりモラトリアムが布かれたりする。だから銀行を潰さず會社も倒さないで皆が安心して生活し得る樣な國をつくらうと思へば消費組合をつくるより外に途はないのであります。獨逸にしても、佛蘭西にしても殊に露西亞の如きは一旦解散せしめた消費組合をレニン政府が復活して今では又消費組合の御厄介になつて居る、之を見ても日本の今日の經濟を立て直さうと思ふならば是非共消費組合を作らなければならないのであります。それを諸君殊に御婦人方に氣附いて貰ひたいのが吾々のやり出した運動であります。

私共の被服は帽子から靴まで一揃十六圓でもつて一人前の

紳士が出來上るのである、十六圓紳士だ。併し只安い物を賣ることが目的でなく、又被服ばかりでも勿論ありません。要は吾國の產業の或一定した價格に於てそれを賣つて民衆の滿足を得ることが一つの使命であります。贅澤なものを買ひたい人々は三越や大丸に行けばよい。吾々は胃袋を一つは持つて居る、胃袋と命は一人前誰しも持つて居る。從つて日本六千七百萬人が同じ様に持つて居るものを同じ様に造つてゆかう。供給してゆかうといふ約束によつて消費組合を唱へて居るのであります。只今の商人は裏から廻つて御用聞きを致します。奥様は値段も聞かずに命令する、月末に通帳を見てびつくりして、オヤ〳〵こんなに高いとは知らなんだと云ふ。だけれどもそれには掛賣の利子もついて居れば貸倒れの損失補償も御用聞き代も這入つて居る、電燈代も家賃も何から何まですつかりひつくるめて計算した價格が這入つて居るのである。吾々はかうした方面から物を拵へる生產者と物を買ふ消費者とが一緒になつてまん中の商人を拔いてしまふ時代をつくりたい。言ひ換へれば賣手即ち買手、買手即ち賣手である組合をつくらうといふのである。此の組合が出來ますれば安心して物が造れ安心して物が買へる。私は安心と安價斯ういつた理由でもつて消費組合は存立するものと考へて居る。私は多く申しません、只今日本の消費組合は都會に僅か三百程出來て居るばかりで然も東京方面の組合は掛賣を許す爲に皆困つて居る。

私共は八年前から大阪、神戸、東京に消費組合運動を始めまして、どうにかこうにか今日では立ちゆく様になつて居ります。然し私は自分がつくつて居る組合丈けを申すのではありません、消費組合なればどれでも構ひませんから諸君は出來るだけ早くこの消費組合組織の力でもつて家庭經濟の立直しと共に國の經濟を立直さなければ今後にも恐慌や銀行倒れが尙ほ續くといふことを意識して貰ひたいのである。今から八年前に私は阪神地方に於て勞働運動の最も最初の運動を始めた、僅か八年後の今日では既に普通選擧すら克ち得たのである。然るに婦人達がまだ參政權どころか經濟問題にも目醒められて居ないが、恐らく玆八年もすれば御婦人達自らがこゝに立つて、消費組合でなければ吾が國は救はれないと絶叫する時代が來ると思ふのであります。その爲に私は先覺婦人達が進んで消費組合といふ家庭的なものを組織なさるやう切望する者であります。


婦人運動者
婦人運動者
無産婦人解放運動
婦人運動者
婦人運動者
1927.12.21

無産階級と所謂「勤儉貯蓄」（上）

辰巳經世

一　はしがき

色とり〳〵のポスターや文句様々の標語を揭げて、所謂『勤儉貯蓄』のお太皷がたゝかれてゐる。私はこのお太皷の響を耳にする毎に、かの古代ローマの政治家――彼は同時に大道徳家として讃へられてゐる――カトーが『奴隷は働かせるか眠らせるかして置け』と言つた言葉を憶ひ出さずには居られない。古代社會に在つては、奴隷はその所有者に取つて最も重要な生産要具であつた。從つて所有者はこの生産要具を最も有利に使用することに腐心した。分り易く言へば、奴隷を維持するためには、衣食住等若干の費用を必要とする。奴隷を働かせて得た結果からこの費用を差引いて殘るところが所有者の純利益である。そこでこの純利益を最大ならしめるためには奴隷を最大限度に働かせると同時に、これを維持するための費用を最小限度に止めるのが最良の方策である。賢明にして徳高きカトーの思ひつきは成る程とうなづかれる。そしてそれは偶然にも今日の社會の凡ゆる賢明な人々、凡ゆる慈心深き人々、政治家でもあり道徳家でもあるお歴々が、力を籠めてたゝいてゐる『勤儉貯蓄』のお太皷の音色とぴつたり一致して居るのである。私は本稿でこの音色を少しはつきり聞き分けて見やうと思ふ。

二　『勤儉貯蓄』の奬勵者と被奬勵者

先づ第一に、私たちがはつきり知つて置かなければならないのは、誰が誰に向つて『勤勉なれ』『儉約せよ』『貯蓄せよ』

と唱へてゐるかといふこと、即ち如何なる人たちがその奬勵者であり、如何なる人たちがその被奬勵者であるかといふことである。それは明かに決して無産勞働階級の叫びではないそれが有産徒食階級の要求の巧みに變裝せる表現であることは『勤儉貯蓄』のポスターが多く內務省、文部省、大藏省、遞信省等々から發行せられて居る事實に依り、『勤儉貯蓄』の活動寫眞や講演會が、多く地方の官公署に依つて主催されてゐる事實から、又『勤儉貯蓄』思想が、有産意識の苗床である國民敎育機關に依つて力强く鼓吹されてゐる事實から容易く伺はれ得るのである。

それ自身格別働くこともなく、有り餘つた資財を擁して贅澤な生活をしてゐる有産徒食階級が、自分たちの仲間に向つて勤勉を說き節儉を唱へるならば、大して役に立つことゝは思へぬが、少くとも殊勝なことゝは受け取れる。然し彼ら自身の間では、所謂名流婦人たちが、賣名と暇つぶしに『お互に無駄を省きませう』などと、無內容なスローガンを揭げて、その實極めて無駄に滿ちた會合を催してゐる位で、特に『勤儉貯蓄』の名にふさはしいやうなことをやつてゐるとは思はれない彼らが凡ゆる手段を盡して『勤儉貯蓄』を押しつけてゐるのは、疑ひもなく無産勤勞階級に向つてである。

では一體『勤勉なれ』と謂はれてゐる人々は、それ程不勤勉なのであらうか。每日九時間、十時間、甚だしきに至つては十數時間の長きに亙つて、汗とほこりにまみれて働いてゐる工場勞働者に、それ以上『勤勉なれ』といふのは何を意味するのか。早朝から夕遲くまで野に出て働いて居る、尙ほそれだけで生計が充分でないために、夜仕事に繩をなひ草鞋を作つてゐる無産農民が、この上『勤勉なる』ためには一體どうすればよいのだ。『勤儉貯蓄』は身のためだといふ。國のためだといふ。國のためであるかないかは暫く別として眞に彼らの身のためを計るのならば、何故大切な健康をすり碎いてゐるやうな無理な働きをさせないで、もつと少い時間働いても相當に生活して行けるやうな方法を講じないのか。彼らは今や餘りに働き過ぎて居るのである。働きすぎて食べ兼ねて居るのである。而も所謂德高くして民衆の福祉を云々するお歷々は、かういふ事實を見て見ぬ振りしながら『稼ぎに追ひつく貧乏なし』などと涼しい顏して言つてゐるのである。

お歷々は又無産民衆に向つて『儉約せよ』と聲高々に呼びかける。吹田町役場から、私共の家へ時々配附して來る印刷

物にかういふ文句がある。勿論文字通り判つきりおぼへてはゐないが要するにかうなのだ。一週間の中、

一、肉食はぬデーを決めること。

一、酒飲まぬデーを決めること。

一、敷島その他高い煙草を吸はないでもつと安價なもので辛抱して、差額を貯蓄すること。

その他これに類することが、何項か列べてある。『肉食はぬデー』を決めろなどと奬めるより、何故切めて一週間に一日位『肉食べるデー』を設けよと奬めないのか。『酒飲まぬデー』を設けよと言ふ代りに、何故好きな者は切めて一週間に一度位、打ちくつろいで『酒飲む』機會を與へるやうに骨折らないのか。敷島など高い煙草は到底吸へないから、無產民衆は已むを得ず、比較的安くて效果のあるバットを需要する而もそのバットが殆ど何時も品切である。口先ばかりの餘計なおせつかいをする代りに、何故高い煙草ばかりを賣つたり安くて濟むものを矢たらに高く値上げしたりすることをやめないのか。所謂お歴々が大衆に向つて『お前たち自身のためだぞ』と呼びかける事柄は、品とり〴〵ではあるが結局みなこんなことばかりである。(未完)

一讀者の聲援

此の「婦人運動」を創刊以降毎號殘る所なく拜見して來た理由は、第一には何としても、奥むめお氏の人を知つてゐる處から、第二には其所説が眞に血あり、涙ある婦人の叫びであると信じられたから、更に第三には私の研究の方向が此の運動と共鳴する點があつたからでありました。

將に昭和三年と共に第六卷を重ねられる御誌も想へば人の子では六歳と云ふ年齢であつて、來春には學齢兒となるのであります。かれこれ合せ考へて見ると諸姉の御苦心の程も想ひやられます。然もだん〴〵と底力ある進みをして來られ、今や何れの頁も其の主義主張のためには不用なるものは少しもなく其の說く所は眞に力行の結果生れて來てゐると思はれるものばかりであつて空理空想的のものはなく、實にかゝることは大切なそして立派なことでありまして、此の種のものにて他に比を見ません。社會改造の運動も、かゝる進化を見せればだめであるといつも拜見しては獨りでうなづいてよろこんで來たのです、職業婦人社の發展を心に念じてゐるかくれた一聲援者の一人である私が、今日迄御誌から得た色々の智識の多かつたことを謝し、同時に社内御一同の御健鬪を祈ります。

なほ、今後は私も時折私の生活の内に感じたことなど御誌を通してもの云はせて頂かうと思つてゐます。

―岡き代子―


騎了婦人
迫害図
生活難
神山宗勲

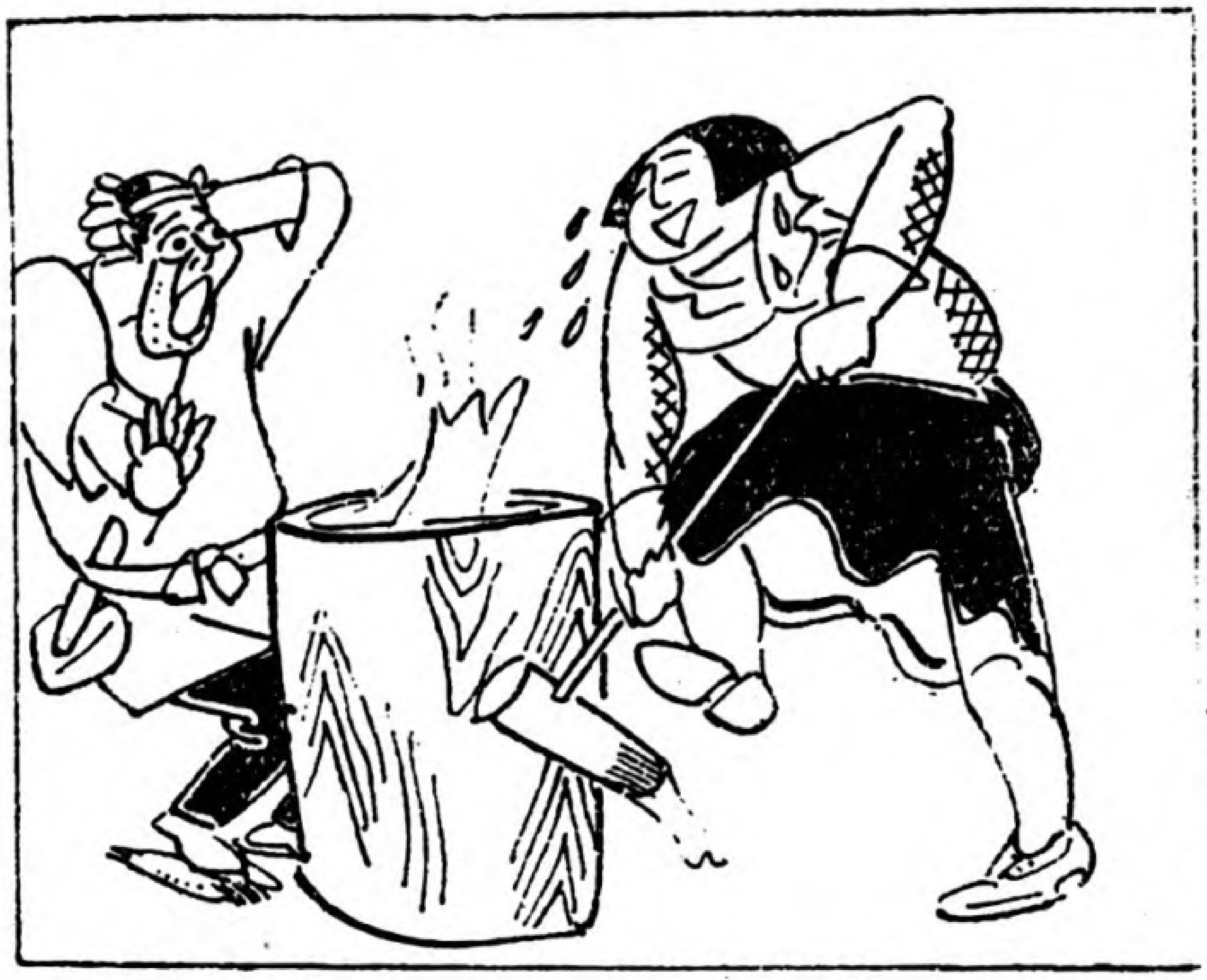
昭和婦人六面観

さぶろ作畫

一、天文學者



『小さい鉢の花バラが貴女の愛の露受けてエー……』高遠なる理想の序曲が女大の窓から天に向つて放送される時此の愛すべき天文學者等は語るのです。『ネエ貴女三百圓のサラリイマンなんて中流社會にもはいらないわれ』勿論この姫御前達が豆腐を一粍立方に切れと云つて女中泣かせの御難題をもちかけられる御前身である事は云ふ迄もありません。



二、スポーツ・ガール

スポーツ・ガールこれこそ婦人運動を文字通り具象化したしろものです。例へば牛乳罎の如し。尤も脊丈許り大きくなつて反物が餘計いるからと云つてもそう〳〵馬鹿には出來ません。試みに彼女にキネをもたして御覧なさい。それこそスポーツの民衆化も民衆化一家庭的侵潤と云ふ所で體育奬勵經費節約の今時一擧両得と云ふもんでせう。



三、結婚迷ひ子

舌切雀のお婆さんじやありませんがこの荷物を御覧なさい。屑屋の大將にしちや餘りにモダン的です。卒業證書琴三味線はては生花、長唄、端唄の嫁入百科免狀をウントコ仕入れて、『ヤーイ妾の相手はどこヤーイ』。結婚の迷ひ子は時々結婚媒介所と云ふ交番へかけこみますれ。尤もここのお巡さん時々前科何犯の曲者がゐるちうんですから皆さん御用心〳〵。

四、慈善鍋屋

鍋燒うどん、慈善鍋、何れも冬枯街頭の姉妹名物です。『皆さん救世軍の慈善鍋で御座います』此のサルベーション・ハンターズのにがかなリズムを屁の樣に聞き流して行く人も近頃鍋底にチラリと一べつだけはくれる事です。『ヘヘッあけてくやしき玉手箱あの中からラヴレターも惡い氣持じやれえ』餓えたるキリストに一片の金を惠むより桃色の封筒を與へる近代人はたしかに神樣を忘れてゐますれ。





五、モダン・ガール

モガの跳梁朝に源氏夕に平氏―― 秋波の送迎の忙しさ此の戀愛出納會計士は白晝大道貞操を着て歩くのですからやりきれません『君、も少しゆつくり歩いてくれ給へ僕ア君老人だぜー』『彼女の第何番目かのパトロン』『メイク・ハーリー』と彼女。通りすがりの青年『チエツ途々一杯食はされた、もう旦那がある。成程うめえ事を云つたな』

六、箱入娘

蝶よ花よと育てられる公稱『箱入娘』の名を以て未だに市井下町のあたりに封建時代の煤をかぶつた女性がコロリン・シャンとしてゐます。蝶よ花よと骨董品の樣に賞で愛せられる娘こそ御難です。持參金のノシをつけられて品物の樣に買はれて行く迄は箱の中にカビのはえたヤウカン宛然としまいこまれて どこ迄も家庭の裝飾か男性の附屬品所でノホ ホンとしてゐる所が齒がゆいですれ。



一般婦人界乃至社會運動としての婦人運動に對する希望

與謝野晶子

婦人運動は運動費の無いのに困ります。運動のために働く眞面目な人物には決して缺乏して居ないのです私は或程度まで物質的の應援をする篤志家を有産者の間から澤山に得たいと思ひます。食べることに追はれてゐる無産者から醵出する零細なお金に據つて立つことは、實際に苦しい事であり、しばしば切角の運動を挫折させます。女子の位地を確實にすることが全體の人間の爲めである事に就いて、有産者の覺醒を祈ります。

白柳秀湖

私は奥さんが、婦人運動を消費組合運動によつて培はうとするまでにくだけて來たことを大層うれしく思ふ一人であります。が、モウ一つ世話にくだけて奥さんが主唱となり不正商品のスッパヌキ及び不買同盟を起しては何うですか之は各自臺所の大問題であると同時に又、一面粗製濫造の資本主義に對する大鐵槌で問題が可なり大きいのです。不正商品問題は次の三項に別れます。

(一)摸造品、若しくは摸擬品のスッパヌキ
(二)レッテル賣買の內幕
(三)產地詐稱の內幕

石川三四郎

母系組織から父系組織に社會が革命されたのは男子の暴力による女性征服によるものだと社會學者は言ひます（バホーヘンやエンゲルスはそう言ひませんが）其れと同様に暴力によつて階級制度が樹てられて今日の様な政治といふものが起つたのだと申します、果してそうだとすると婦人の解放は一般弱者の解放と同様に政治否定の社會運動によつてのみ實現されるのだと思ひます。二十世紀の解放運動が、先づ政治を否定してから一歩をふみ出さねばならぬと同様に婦人運動も共方向を選んでいたゞきたいと思ひます。

北昤吉

婦人の社會運動は當分見込なしと存じます。第一婦人は協同一致の精神を缺き團體的には何一つ出來ません。寧ろ婦人は凡て家庭に入り子供を生み子供を味方として男性の横着と横暴とを制するが最も有效です。一人の山の神の權威は一ダースの老嬢の喧々囂々以上であります。

池山林儀

すべての運動は宣傳も大切ですが、小さくても少し位は不徹底なことでも、目に見えても見えなくても、不言實行的に一歩々々實際的なことをやつてゆくことも大切だと思ひます。

下村　海南

婦人方が相互に聯絡をとり協力して消費經濟の革新に眼覺めてほしいと思ひます。

島中　雄三

婦人の團體及びその運動を外部から眺める場合しば〳〵感ぜらるゝことはやゝもすればそれが他の何物かの勢力によつて操縱せられ乃至は利用せられて居るのではないかと懸念されることです。少くともその危險は十分にあると思ひます。申すまでもなく婦人の運動は婦人自らの運動である。婦人自ら、時あつて之を利用させるのは一向差支ないしかし斷じて他に利用されてはならないと思ひます。幸に御健闘を祈る。

片山　哲

婦人運動も、無產階級解放運動としての一翼なることの意識を充分に徹底せしめなければならぬ。それ故、婦人運動も無產政黨運動と共に、進行し、且つ步調を一にしなければならぬ。いたづらに、奇矯なる言辭を弄したり、又は參政權のみを目當てに進む樣では駄目だ。

江口　渙

一般婦人界に對してはもつと婦人全體が階級意識をはつきり持つてかゝりたい事ですが、これはあまり一般的な問題だから止しませう。社會運動としての婦人運動については、當面の戰線を擴大する事も大切ですが、同時に好い後繼者を不斷に作る事をおこたらない事が大切です。

新居　格

何の運動に限らず社會運動であるかぎり、無名で、地味にコツ〳〵やることをいゝとします。理論爭鬪もあつてなきにまさるが、それだけで口ほども實踐の力のないのは可笑しい。

これだけがアトヴアイス。

岡本　利吉

婦人が勇敢になつたことを喜びます。家庭以外の社會が見へだした事を喜びます。だけれども生活が男子に隷屬してゐる間は、そうした喜びが徹底しなく思はれます。

しかし生活の意味を、生活の材料を購ふ金儲けの働きと解しては、婦人の立場がなくなるのみかその解釋それ自體が誤まつてゐますまいか。生活は人間として暮してゆくことの全體でなければなりません。

そうとすれば、よし婦人が家庭にばかりゐて、育兒と炊事と裁縫のみした處でそれが重大な生活ではありますまいか。金儲けのみする男子のみ威張る理由が何處にありませう。婦人は解放されねばなりません。同時に生活の意味を男子に敎へねばなりません。

神近　市子

社會運動としての婦人の運動に携はる人々に望みたいことは、理論的にもつとハツキリと自分達の立場を究明することとして、そこに出立して目前の現實の問題を捕へて大衆に働きかけ、その心をつかむことを學ぶこと等々。

浅利順四郎

大多數の人々の關心事となり得るやうな、そして又、ならねばならぬやうな事柄を運動の目標とすること。

誰れか(Somebody)を相手にした運動より

誰れでも(Anybody)を相手にした運動へ。

小笠原譽至夫

私共の助言などは申上げる程の價値もありません。が、唯一つ是非申述べ度い事は婦人運動のリーダーにモー少し熱のある人がほしいと思ひます。即ちモー十人程の奥むめおさんがほしいと思ひます。

山川菊榮

やつと芽を出しかけたばかりの無産婦人運動が社會運動のあらゆる方面を吹きまくつてゐる分裂闘爭の嵐にもまれてゐる有樣を、まことに殘念にも、また情ないことにも思ひます。婦人指導者たちが本當にこの狀態を、無産階級の解放の上に、必要な有利なことだと考へてゐられるかどうか、聞いてみたいものです。今まででも、婦人運動に理解ありと稱してゐる左翼の內部でさへ、男子指導者の無理解に婦人は隨分惱まされたものです。婦人指導者が本當にシツカリした自分自身の意見をもつことが、無産階級の婦人運動の上に、一番望ましいことです。

安成二郎

婦人だけが集つて何かやる事をやめて、男の仕事の中にはいつて行くべきです。尤も男のやつてゐる事はつまらない、男恃むに足らずといふので婦人だけ集るなら又別です一體婦人の運動で效果を收めたものが何かあるでせうか？

加藤勘十

一九二七年の日本の無産婦人運動は、其の發展の上に重要な展開を示しました。關東婦人同盟、全國婦人同盟、勞働婦人聯盟等々の結成はそれであります。是等の婦人團體の結成は當然に從來の日本の婦人運動の質的發展を示標するものと思ひますと同時に現段階に於ける婦人運動の無産階級的役割並に性別的特殊運動の主動的地位を占據するものと思ひます。それにも拘らす、私はこれ等の婦人團體の結成過程に一つの過誤の冒されたことを認めない譯にゆきません。それは、これ等の婦人團體が——諸多の理由をもつてゐるにもせよ——無産政黨の分裂線に添つて結成されたことであります。

一九二八年の無産婦人運動は當然にこれが反省の上に第一歩を進めねばならぬと思ひます。今や、無産各政黨も資本の積極的攻勢に强力に闘爭するために、戰線統一の慾求を熾烈にし、各黨派間に於いてもこれが具體的方針を考究すると共に具體的方法を進展せしめつゝあります。無産各黨派間の統一に關する問題の進展は、現下の事情に於いては當然に各無産婦人團體の上に强い影響を與へることを否めませんが無産政黨の問題の進展とは別個に無産婦人團體の戰線統一問題が考慮されねばならぬと思ひます。

家政學の改造

片岡重助

今から彼是、二十年前には、女學校でも、單に、お作法だとか割烹だとか、云ふ名目で、謂はゞ隨意に餘興的に敎へられてゐたのが、今日の家事科の搖籃時代である。尤も歴史的に見れば、夫れ以前に遡ることが出來るかも知れぬが、一般としては、かく謂ひ得よう。女學校に正課として家事科を課するやうになつたのは、それより、ずつと以後のことであるさうして、學科としては、亞米利加や、英國、佛蘭西邊りの本の部分的の飜譯から多少科學らしい奧味をつけたとは云へ此の間に在つて、此の科の成立に携はつた人々は、餘り深い學問的素養もなく、識見もない爲めに、成立した我が國の家事科乃至家政學は、實に不體裁なもので木に竹を接いだ以上に、全體としての系統も立つてゐない。近時は醫學者や農藝化學者の方面からは榮養方面の研究が行はれ、工學者や社會事業家からは住宅問題が研究されて來た。併し、それは直ちに、無條件で、家政科なるものの一部とはなり得ないと云ふことにさへ、所謂家政學に携はつてゐる人々にして尙且つ感じてもゐない。

要するに、未だ、我國の家政學なるものは完全に成立してゐない。學問として成立してゐるか否かは別問題としても、なほ、全體としての系列なり調和がとれてゐない、平凡な云ひ表はしではあるが上下を着て、靴を穿き、自動車に乘つて英語でもしやべらふと云つた以上に、妙

お餅

小すゞめ

和歌山の小笠原響至夫氏から職業婦人社へ、お正月のお餅を送りませうと云ふハガキが來た。さあ、待ちされない連中が大分有る。結局懇談會の夜に、みんなでサイソクの寄書きを出すことになつた十二月十一日の事である。

お餅のおたより有難う、と、早やお禮を書く氣早やな連中もある。お餅は何よりも大好きです。深山に願ひます。とは千代子女史、大きいのを下さい、と駄々をこれたのはおみつちやん。等々、二枚のハガキを一杯に書きちらしてお送りした。

その返事として頂いたのが次のやうなハガキである。

拜啓皆樣ではがきを御寄せ下さいまして誠に或愉快を感じました。皆樣がコンナに元氣であつて、而かも其元氣を婦人運動の上に集注するならば他日の成功は疑ふべくも無いと信じます。

私の方も本年は大不景氣でスツカリ閉息して仕舞ひました。が、來年は必ず悉

な格好をしたものである。今日でも、田舍の女學校に行くとお作法の先生に、小笠原流があるかと思へば、學校を卒業した家事の先生は、學校の記念日に、父兄母姉を招待して、サンドウツチなるものを供さう、と云ふ意氣込である。

有閑階級の生活模倣と云ふことは、我が國民大多數の傳統であるかも知れぬ。併し、それが生活形式の理想であるとは謂へぬ。少數有閑者の生活が、如何に、華やかであり、お上品であるにしても、これは一般國民生活とは、餘りに、多くの交渉を持たない。それ故、その生活は家事科なるものの對象とはなり得ない。對象となり得ないものが、却つて、本體となつてゐるのであるから、益家事科は國民生活とは沒交渉になる。

今、一つは、都市生活や、俸給生活と田園生活との區別が、家事科に於て、ハツキリと、せぬことである。家事教科書を見ると、お申譯的に、百姓の家屋だのその間取だの、下女下男の使ひ方だのと云ふのが、掲げられてゐる。これは、また木に竹以上に、垢切れにソツクヒを押し入れたやうなもので、農民の娘達が讀んでは、農民生活を嫌ひこそすれ、これを樂しまうとする勇氣は出ない程度のものである。何んと云つても教育家殊に今日迄の女流教育家は多くは士族の出身であり、都市の出身であり、而して、所謂貴婦人を理想とした人々であるから其の思想なり感情が一般國民生活には觸れてゐない。夫等の人達に依つて培ひ育てられた家事科なるものも、餘りにお上品に出來上つてゐるので、お百姓や乃至庶民階級の生活指導としては適はしくない。

家事科は一軒の家を對象としてゐる。即ち一軒の家の衣食住なり、育兒なり、教育なり、家政經濟の持ち方を研究してゐる。もつと嚴格に云へば、一軒の家が對象ではあるが、主婦の任務と云ふ點に局限されてゐる。子供や老人や乃至は主人は、主婦に依つて取扱はれる物品のやうなものとして、その所謂取り扱ひ方を教へてゐるのではなからうかと思はれる。

い年を迎へます。此度迎へます。お餅をモツト〳〵深山に送ります、皆樣もモツト〳〵元氣を出して下さい。

皆樣が善い年を迎へて下さることを祈ります。不盡

そして早々お餅が屆いた。

『職業婦人社ぢやあ、早くからお正月が來た』

とみんな大喜び。兩文子嬢は、中でも大喜びの連中で、こんな調子ではほんとうのお正月が來たとき、お餅が有るかしら頗る心配である。

靜岡縣のある讀者から、おみかんを送りませう、と云つて來た。有難い。彼子女史と千代子女史つたら、大の蜜柑黨なんだから、屆いたら、どうせたちまち殘骸の山よ、と、誰やらが笑つて行つた。

但、蜜柑が屆いてみなければ眞僞の程は解りがたい。

お菓子

かなりや

鈴木千代子さんが急用ありて豐橋の家へちよつと歸つた。そのお土產に深山の

また、家事科は、家と社會の關係を、單に社交の心得と云ふ點のみで、結び付けようとしてゐる。十分に發達した村落社會は、教育、經濟、宗教、交通運輸、政治、並に社交的に組織されたものでなくてはならぬ。家が家のみとして意志し活動し、結果を受けるよりも、まづ、村落社會から、而して更に廣い意味の社會から、働かされ影響を受けることが多いと云はねばならぬ。現今の家事科は、その點に着眼しない。魚屋さんの小魚の價を値ぎつたり、お米の量目を檢査する奥さんは出來るであらう。何んとなれば、家庭經濟なり、一家の消費經濟なるものを教へてゐるから。併し、家庭の生活が國家の政治に、部落社會なり、市町村、府縣の自治體なりを通じて、連繫してゐることに、心付き、その方面の實際運動に眼醒める婦人は、容易に出でないであらう。コンミユニイテイ卽ち部落社會を第一次に於て、家事科の對象とすることは、消費組合運動の發達上にも、極めて重要なる點であらう。希くば、今後の婦人教化運動は餘りに一家庭内の生活や道徳を目標とせず、さりとて、また、街頭に立つて、行き交ふ人々に呼びかけ話しかけるやうな宣傳本位でなく、特定の部落社會と云ふものに第一歩をおきたい、と思ふ。而して、其の要求が生れた一般國民生活に適はしい家政學が、社會學的見地から、改造さるべきであらうと希ふものである。

味噌汁

うぐゐす

市川房枝金子茂兩女史の處から歸つた社長さんの述懷談が面白い。

『あなたん處の鈴木さんは、お嫁さんかお婿さんがつて聞かれてれえ、それあ、お嫁さんさ、と云つたのよ。

然し――貰ひ損なつたわよ。うちのお嫁さんは朝も晝も晩も、かぶらの味噌汁ばかし食べさせるの。さうしてゐて、かぶらはお美味しいだらういゝ匂ひがするだらうつて、毎日賞める言葉のサイソクよ。どうせお嫁さんを貰ふなら、金子さんのやうなのがよかつたわれえ。いろいろ御馳走をしろて貰へるから。私、さう云つて來たのよ。鈴木さん、どう?』

かぶらの味噌汁の鈴木さんは、其時ニガイ顔をしてました。然し、みんなではやし立てて一緒に笑つてしまいました。

菓子を持つて來た。(鈴木さんの家は菓子問屋だから)

鈴木さんの居ない時、社長さんは、丁寧に一つ一つ紙に包んで、更に風呂敷に包んでしまつてある幾種類ものお菓子をすつかり擴げて店を開いて云ふ。

『どれでもいゝのお取り――』

『もう出かけるの? キャラメルでも一つ持つてゆかない?』

そして歸りには、坊やと紀伊ちやんのお目ざめに一つまみを、紙に包んでふところへ忍ばせて行く事を忘れないのである。子供連れのお客でもあれば、お土産の紙包みを持たせて歸すこと勿論のこと

やつと事務所に一と通りの入用品が揃つたから――と日頃お心添へいたゞいてゐる誰さんを招んで、彼さんを招んで、と鈴木さんはいつも幾日分もの豫定を指折り數へながら、

『その時にお菓子だけは買はないで濟むからねえ』と樂しみにしてホク／＼してゐるのだが、その時までに、あのお菓子が、からつぽにならなければいゝがと若い連中はみんな大心配の最中。

ロシヤ劇革命後の十年

小林宗吉

ロシヤの革命と共に全藝術に大きな變動が來たことは誰でも知つてゐることであるが、殊に劇藝術の上に、劇場の組織演出者、及レパアトアの上に、根本的な革命が來たことは、吾々劇の研究をしてゐるものに限らず誰でも大きな期待と興味を感じてゐることゝ思ふ。

ロシヤの新しい劇については、小山内薰氏がロシヤの招待を受けて今度彼地に行かれたから、いづれ氏が歸られた日には、今迄、新聞雜誌に斷片的に報道せられてゐた以上に判然と內容が知れると思つてゐるが、尙、最近、自分の手元に來てゐる種々の外國の評論の中から得た、極く概念的な總合的な感想を書いて奥氏への義務を果したいと思ふ。

ロシヤ革命は一九一七年十一月九日（革命紀念日は多分十一月七日）だから今日迄に約十年經過してゐる。十年の年月の間にロシヤの劇場は新藝術創造の混沌たる渦をまいて動搖したが十年後の今日はいくらか、平衡の狀態に達したと言はれてゐる。

何處の國の劇場でも同じであるが、殊にロシアの革命以前の劇場は、所謂るブルヂョア集會所で、彼等の匂ひで砂糖漬のやうになつてゐたことは他國より甚だしかつたのであるがその劇場が一朝にして、勞働者の手に渡つたのだからたまらない。演出目錄は勿論、演出や背景の方法、經營法、が全然別なものになつたのであるが、一番革命的な變化を受けたものは、劇場行政であらう。

すべての建築物と同樣、國民の財産といふことになつて財政上の組織が根本的に變つて、新しく無産階級の劇場となつたのであるが、面白いことには、政府の補助を仰いだとは言

へ、大體に獨立經營でやつて行けることになつたのは一つの勝利と言へないこともない。しかし劇場が民衆へ開放せらるゝや、丁度、侵入軍が他國へ侵入した時のやうに、樣子も何もわからず、無暗と從來の劇場方式を破壞して、（むしろ感情的に）美しい古典的な結晶であるロシヤバレー等を全然異國物化し、從來の劇も音樂も全く異端視して蹴飛ばした手際はどうであらうか。

　けれども其時の革命者の思想感情は、俺達のやうな虐げられ打のめされてゐた感情の枯渇した犬には、所謂る紳士淑女諸君のお樂しみになるものはわからない。吾々犬の如き輩には犬としての特有なる感情や思想がある。と言ふ激しい階級意識があつたのだから仕方がないと言へば仕方がないのでむる。斯ういふ調子で、かのスモコーの藝術座、及、モスコーペトログラード市の各劇場カメルニー劇場など、立派な古典美の寶庫は（當時政府は此の古典藝術を保護しやうと努めたけれども出來なかつた。）新しい民衆の手に渡されてしまつた

劇革命後、ロシヤの劇界は、理論的に二つの概念に別れた

　　群衆劇場としての概念。（創造劇場とも言ふ。）

　　構成派劇場としての概念。

　この二つの概念派については、詳しいことは此處には書けないが、大體に就いて二派とも共產主義劇場を目的としての段階としての一つのプロレタリヤー劇場であること、及、ブルジョア劇場に對立してゐることについては全然共同の意志に立つてゐると言つていゝと思ふのである。

　前者の群衆劇場派は、それ自身一つの缺如もあるが、多數の劇團を簡易に組織し、何でもかでも革命運動に資するものを劇化して野外劇でも何でもやつてのけて、一つの革命要素となつたことはそれ自身存在意義があると言へるが吾々が注目に値するものは、むしろ後者の、構成派劇場、殊に、ヴセヴオロド、メイエルホルド氏の劇運動であらう。一體、新しい劇運動を理論化してゐる時は、いつでも初期のことで、ロシヤ劇革命に於ても、初期が過ぐると、經濟上、或は政策上過去の革命以前に歸らなければならないやうな實際問題の諸難關にぶつかつた。この歸納的な傾向に向つて、革命家は戰はなければならなかつたが、此の新しい戰ひに對する戰術は自然、從來の缺點を補つて、一方には「共產革命としての政策」を持ち、一方には「藝術としての未來革命」丁度、片手には、リアリズム、片手には審美を持つやうになつて來たの

である。これは革命初頭の理論精神から言へば、又、(形は別であるが)古典美に片方の手を握手してゐるやうなもので一寸皮肉でもある。

何しろ、此の運動の第一人者として、焦點となつてゐるヴゼヴォルド、メイエルホルドはロシヤの誰よりも「審美劇場」を確立した點に就て最高の功勞者と言つていゝだらう。

しかし、此のメイエルホルドの新演出も、審美劇場とは言へ、やつぱり共産宣傳劇であつて、彼の工業機械化した演出は、その三年の功績の後にも、やつぱり革命劇場、プロレタリヤー劇場としての全解決を與へたと言へないことが今日では明白になつてゐる。

此の新演出、構成派劇場が、(宣傳用としてではなく)人間そのものゝ上に完全に心の糧にならないのは、その要素の第一は、劇の最大要素の一である、

見るものとしての藝術

として、重大なる要素として、大きな空隙があるのではあるまいか。馬に飲みたくない水をのませ人に見たくないものを見せることを強ふることは決して成功しないと同じやうに見たくない機械化された舞臺など、いつも見せられるのはたまらないのは人情ではあるまいか。

此のメイエルホルド、其他ロシヤ劇界の功勞者フオレゲルアイセンスタイン、タイロフ、ヴアチタンゴフ等は、勿論、ロシヤ劇革命には多く功勞があると言つても、も一つ、も一つ別な、眞に、勞働者、ブルヂョアの區別なく、誰でも人間を樂しませよろこばせ、そして訓へてくれる新しい劇を見せてくれる新しい天才が、革命のロシヤに生れて來ることを私は希望してゐる。

(終りに、毎號送つて頂く「婦人運動」の中に伊福部敬子氏の書かれるものに敬意を表します。今後益々勉強して書いて下さることを希望します。)

貧乏記

平田のぶ

白マント

まあ私としたことが、なんで、こんなもの買ふ氣になつて了つたのだらう。釘に引つかけてある、ピカ〳〵の白い小さいマントをながめ乍ら、後悔してゐるのである。

あの日、持つて來た手當のうちから、待つてゐた家主に家賃十一圓を持つて行かれたが、それでもまだ八圓いくらか財布に殘つてゐた。

「母ちやん、これで、石油と、米と炭とが買へるねェ」

娘はさういつて喜んだ。私も、それ丈買へれば、しばらく樂だと喜んだ。それだのに、私は、フトした出來心で、その金みんなでマントを買つて了つたのだ。勿論、あの六丁といふ長い橋を、マントもきずに私に手を引張られて、よち〳〵歩く坊やの姿をみては、一つマントを買つてやりたいなアと思つた。然しそんな事、今の私共に望める話しではなかつた

電車を待つ間、近くの洋服やに、つり下つてゐるマントにふと目がとまる事があつても、鬼門々々と目をそらすのが、常であつたのに。まあ、ほんとに、何んといふことを仕出かして了つたのだらう。私は繰返し後悔するのであつた。

私の後先き考へずのかうした無駄使に對して、何もいはぬ娘をみるのがつらかつた。今朝の御飯は馬鹿に黒くて、麥ばかりだつた。二割三割五割とだん〳〵ました麥を、きつと、八割も入れたに違ひない。米を少しも長く食ひのばす爲めには、かうするより外はない。近頃大方毎晩のように、大根やジヤガいもや、人參を切りこんで鹽で味をつけメリケンコでどろりとさせた汁をつくる。彼女は「精進シチユー」といつてゐる。醬油が殘り少なくなつたので、こんなことを思ひついたに違ひない。まだ世帶の苦勞の出來る年でもないのに何の不平もいはず、訴えもせず、だまつて、こんなやりくりする娘を思ふと泣けて來る。

「マント〳〵」

坊やは、姉ちやんと一緒に田圃に芹つみに行く時さへ着て

行く。喜ぶ坊やをみると、八圓は惜しくないといふ氣もするが、直ぐ又後悔に心を責められる。

「買つてよかつた。ねエ、これがなかつたら坊やは此橋の上で、冷え切つて了ふだらう」

昨日冷たい風に息をとめながらあの上で、私はさういつた

「ほんとにね。これなら、丈も長いから、いつまでも着られる……」

私の心持の隅々まで知つてゐて、慰めるやうに、さう同意してくれる娘の言葉を聞いては、又しても、私は憂鬱になるのであつた。

一錢と一圓

五錢と十錢を間違へて、少しも早くと乘合自動車に乘つた爲めに、私は歸りの電車賃が一錢不足してゐる事に氣着いた

「どうしよう」私は、その一錢で思ひ惑つてゐた。

「くだらぬことだ。一錢位で頭を使ふやつがあるか」

自ら叱つてみても、やつぱり氣になつて、省線にのつてからも、その事ばかり考へてゐた。

私は、その日、或先輩の談話をとりに出かけてゐたのである。私は、その一錢をどうにかしなくては、話しを聞く氣にもなれさうになかつた。私は逢ふと直ぐ、電車賃が一錢足りないから、もらひたいといつて了つた。それで心が晴々として、いゝ氣持ちで話しも聞けた。歸りに、私はもうその一錢の事を忘れてゐたが彼は、

「あゝあれを」

といつて、一寸奥に入つて、まだ、折めもつかない一圓さつを一枚渡してくれた。

私は、一錢銅貨一つをもらふ事丈考へてゐたので、そのさつに、一寸たぢろいだ。

「ぢや、一錢は頂いて、九十九錢は、後からお返ししますよ」

さういつて私は辭した。

然し、思ひがけぬ九十九錢は、それが返すべき金でも、懐にあると、つい使つて了ふ。歸りには、娘の爲めに、バナ、と、坊やのために板チョコ一つとを買つて了つた。

「九十九錢返さねば……」

私は、これに毎日こだはつてゐた。

こんなに貧しくなかつた頃は、おごつてもらつても、拂つ

てもらつても、ちつともこだはらず、もらひ切りで平氣であつたのに、貧乏の底ぬけになつてからは、ひどくこだわるその心持ちはよくはわからないが、近來、心の底に時々起る私の乞食根性が——姉か誰かが惠でくれないかなアといふ心持に對する嫌惡と、「もらつた」といふ事による心の重荷にたへられないのは、一人で生きてゐるといふ誇りを傷けたくないのと、此貧乏をうんと苦しんでみたいといつたような吞氣な心持とそれに所謂貧乏人の意地「人の世話になるものか」つていふような心持ちのどれかゞ、又は凡てがはたらくらしい

九十九錢は、幾日か立つてから、切手にして返した。然し彼がひどく怒つてゐると聞いて、私は悲しかつた。

一錢ならもらつて、一圓なら返すといふ私のやり方も、不快でないとは思はないが、やつぱり私にしてみれば、一錢もらうのと、一圓もらうのとでは、大きな違ひである。一圓は私の生活にひゞく。私の生活が樂になる。それが、私には、たへられないのだ。貧乏を一人で背負ひ度いのだ。誰の助けもからずに。

電車賃

「あなたが出ていゝ會よ」

むめお氏は、よく私を消費組合の會へ誘ひ出してくれた。私も、此運動に對しては、誠意が持てた。何かやく立ちたい心で一杯だつた。然し、私は、その會に出かける電車賃を工面するのが一骨だつた。

「電車賃位どうにかなる」

私は、この言葉に甘へて、行き丈の電車賃でよく出かけては歸りの電車賃を彼女から、もらつて來た。

電車賃の苦勞は彼女も知つてゐるといつた風な氣持ちで、私は、少しもこだはらずに、それをもらつて來た。時には、貧しい彼女に夕食さへおごらせることもあつた。

職業婦人社で、林檎の會をするといつた時も私は、すつかりのり氣になつていろ〱立案さへした。然し、その時になつて見ると、やはり僅かの電車賃のないために、思ふように出かけられなんだ。それでも、どうにかして私の手でも、豫約をしたいと思つた。だが私は、さういふ事に、極めて不得手で、心の重荷になり過ぎる事を知つた。

「柄にもない事に心を使ふより、その勞力丈三文原稿でも書いて喜捨する方がいゝ」

などと、歸りの電車に憂鬱な心をのせてさう思ふのであつた。

一流の漫文

北村兼子

大阪朝日に記者を稼いでゐた時分には婦人會にも臨席したり、雜誌「婦人」その他にも筆を執つて婦人諸姉にもお近づきもあつたが、記者をやめて浪人となつてから、一人ぼつちで婦人運動の邪道を踏んでゐるためか、男性のお友だちが多くなつて、婦人がたとは緣が薄くなつて、いまでは講談社の婦人倶樂部へ時々寄稿する程度で、私の身から女氣が拔けてしまつたように思ふ。もと〳〵私は、性別を超越してヒユーマンとなりたい、男とか女とかいふ灰汁を人間から拔いた頭を持ちたいと思つてゐた。それが少しづつ實現するのではないかと思ふ。

けふも奥さんから「あなた一流の漫文」を書いてくれとのことで筆を執つてはゐるが、漫文は呼んで字のように放漫な書きものであるから、筆が何處へ突きあたるやら知れたものでない。このごろ單行本の「婦人記者廢業記」を脫稿したところへ、ゆうべは大喧嘩をやつたものだから、頭の中は空疎になつて、思索が時々中斷するように感ぜられる。一身上のことに觀察點を置いて書き始めるから漫文はほんとうの漫文になる。

え？　その喧嘩の模樣を話せつて、いえ詰らないことで…

大阪で陪審法の模擬裁判が開かれて私も辯護士となつて出廷した。何でもないことから喧嘩が賣られて、衆人環視の中で荒くれた髭男大ぜいを相手に諍つた、私は生れてから始めて喧嘩といふものをやつた。尤もすねたりじれたり所謂女性らしいせり合ひの經驗はあるが、本當の手荒い喧嘩は今度が始めてゞ兩親も驚いた。私自身も驚いた。どうも法律や政治に關聯しては喧嘩も避けられない時もある。議會で毆り合つたり、泥を塗り合つたりすることは惡いにちがいはないが、時としては勢ひこゝに脫線せねばならない時もあらう。これからの婦人運動も前途に喧嘩の雲影が見えるように思ふ。どうしても政治は荒ら仕事だから、ひげ面に怖けてゐては手も脚も出ないように日本の現代が造られてゐる。私は婦人運動

の革開きをお手傳ひするつもりで喧嘩もした。平和は理屈であつて道理でない、道理であつても實際ではない。すべての改造は血と肉とを要求するほど社會組織が冷たくできてゐる立憲政治でも普通選擧でも、その制度を樹立するまで志士の生命は獄中に縮められたことは少いことではなかつた。ひとり婦人運動に到つては、これまで犠牲らしいものを少しも支拂つてゐない。これで希望を達することができたなら、海老もつけないで鯛を釣つたようなものである。しかし私の考へは間違つてゐるかも知れない。自分でもそれを危ぶみながらいま進んでゐる。

× ×

民政黨の遊說部員として三十何回の演說をやつた。その感想のようなものを書いてみる。府縣會議員の應援演說に出かけた時のこと向ひ合せに反對黨の演說會が開かれてゐる。「政敵は卑怯にも女の辯士を使つて人氣を取つてゐる」とかいつて、私に向つて攻撃の矢を向けたものだから、聽衆中の婦人だけが憤慨した。また聽衆は女の辯士は何を述べるであらうといふ好奇心から、すつかり私の出る演說會へ移つてしまつてお向ひさんはガランどうとなつたことがあつた。

彼等の攻撃は誤つてゐた。一個の北村兼子を罵るがよかつた。婦人を罵つたのが悪るかつた。そして婦人辯士に便宜を與へる結果を來した。いま婦人が人格を認められかけてきた時に差別的の言葉を用ゐることは、水平社でなくとも社會が容認しないのである。

大阪では婦人と政治とは全く因緣がなかつたが、今度の選擧には婦人得意の戸別訪問や泣き付き運動ができなかつたゝめに婦人の出る機會は尚更らに失はれてしまつた。しかし演說會場にはこれまでにない婦人の聽衆を見かけた。とりわけ私の出るところにはそれが多かつた。そして多くは職業婦人であつた。私の演說の切れ目〱に音樂のような應援の聲がこれら婦人の群から起つた。その聲が起るたびに泥濁した野次氣分の中に一味の淸風が漂うかのように感ぜられた。私は婦人に背いた。しかし婦人は私を見すてゝはゐなかつた。官憲から中止や注意を喰ふたびに激勵の聲の起つたのも、やはり同じ群から高まり始めたのであつた。

兵庫縣で無產黨を個人として應援した時には、婦人會から送迎してくだすつた。まるで先覺者のように待遇されて恐縮した。恐縮しながら、若い婦人の頭には政治が通うようにな

つたことを喜んだ。これが婦人の候補者を應援してゐるのなら心から樂しからうと、婦選時代が待ち遠くてならなかつた聽衆——殆んど男子——が婦人の意見に傾聽するような傾向になつたことは悦ばしい。これは少くとも政治に婦人の意見を幾分かでも喚はすことであつて、やがて婦人時代の根柢となるべきものと思ふ。これまで男が女よりも優越人種のように思つてゐた角が取れたもので、私どもが吹き込んで置いた風の種が、いつかは嵐となつてもらひたい。近く衆議院議員の總選擧も行はれることであるから、また政治思想を鼓吹する機會が近づいたものである。

婦人の演説に缺けるところは外形的には風采の揚らざること、聲量の豐かならざることであり、內容的には熱のないこと、彈力不十分なことである。これらは婦人運動に携はる人たちの先づ研究せねばならないことゝ考へられる。

× ×

一身上のことを中心として書いたから讀者に對して氣兼ねもあるが、そこが私一流の漫文だとおもつて、讀みづらからうが、それでも「いつはらざる告白」といふ題名の下にかくれて嘘ばかり並べてゐるよりは罪が輕い。もう一節だけ無邪氣なところを書くから、我慢をしてもらつて……

大阪で民政黨の大會があつた時に、私は入場徽章である赤バラをもつて行くことを忘れた、忘れたのではなく、他行してゐて時間の都合で定刻より後れて驅けつけたから赤バラを持たなかつた。則ち忘れたと同じ結果ではあるが……入場しようとしたら警官が拒んで入れてくれない。押問答してゐるところへ幹部の人がきて、

「北村女史を知らないか、遊説部員だ、辯士だ、どてくさなしに入場させろ」

と頭の上から權聲を浴したので、その權幕に警官が避易した隙に私は入場したが、徽章がなくてはいけないから取りあへずこれを挿して置きたまへと黄バラを衿につけてくれた。

こぼれるほど推しつめた中に女性は只一人だけだから衆人の視線は私一人に集中せられた。あの婦人は何ものだらう。やはり役員だらう。徽章をつけてゐるからね。あれは暴力團だ。あんな小さい女が強いのだらうか。さうだらうよ、體は小さくても擊劍や柔道を心得てゐるものもあるからね。どうしてそれを知つてゐるのか。見ろ、黄バラを挿してゐる。あれは暴力團のしるしぢやないか。なるほどあの女は暴力團の

しるしぢやないか。なるほどあの女は暴力團にちがひない。恐ろしい女だね、議會へでも飛び込んで暴れるのだらう。

暴力團とは恐れ入つた。私は幹部室へ飛び込んで、ひどいことをなさるのね、黄バラなんかをくれてさ。黄バラがいけないのですか、暴力團ぢやありませんか、赤面しましたよ。あはゝ北村さんが暴力團とは面白い。何が面白いことがありますか。わが黨に暴力團の徽章なんかはありませんよ、黄は院外團です。いやです、赤に變へてください。赤バラはもう殘つてゐません、今日はそれで辛棒してください。

仕方がないので黄のまゝ席へかへると、待ちうけてゐた群衆が、またしても、暴力團の女が戻つてきた……おかげで永井柳太郎氏の演説を妨げた。……漫文終り。

貞操蹂躪の境界線

開地敏子

それは去年の暮の或日の事、職業婦人社の事務所で同人五六人が牛鍋を突つき乍ら談笑して居るさ中に、野暮な様で捌けて居て、捌けてゐる様で野暮臭い社長の奥むめおサンが、牛肉を一切れ口中にほり込んだのち卒然として曰く。

『私此間△△社に遊びにいつたら、〇〇サンが貞操蹂躪の境界線つてば、どの位の程度が標準だらうか？ と云ふから、私はその人に向つて、さては貴方少々後ろ暗いことがあるのだナアとひやかした揚句、職業婦人社の同人中に婦人辯護士の未成品があるから聞いて來てあげますわつて歸つて來たの！

開地サン貞操蹂躪の境界線てどの位が境界線かナア、法律上から見て？』

と、その捌けてゐる様で野暮臭いところの奥むめおサンが私にドエライ質問の矢をハツシとばかり投げつけた。そこで私が其返事を仕様と腦味噌を絞りかけると、むめおサン更に語を次いで、今度はすつかり話を方向轉換して、扨て曰く、

『新年號の平田のぶサンと北村兼子サンの漫文の次頁が三頁開いてゐる、貴方新年號に何も書いてゐないから、其穴を引受けて呉れない？』と來た。

弱つたナア、私は何も書き度い衝動が起て居ないものとそれを辭退しかけたが、まてよ、さつきむめおサンが質問した貞

操蹂躙の境界線、これは一寸面白い問題だし、興味のありそうな問題だ、自稱男女情事引受所の所長である私が、その質問に對して色よい返事をせぬのは敵に後を見せると云ふものよウし、それは私の專門だ心よく引受けて、新年の吐斯危言でアッサリやつてのけませうと決心して書き出したのが、題目にある通りの私が感じるところの、貞操蹂躙の境界線、新ら玉の年若がへる吐斯危言クダを卷くかも知れないし、脱線するかも知れないが、それは一杯のトソキゲン、よろしく御寛大なる大御心をもちまして、御目こぼしの程を願ひあげさげ奉りますとこれまでが口上で御座いチョン／＼幕

×

扨て貞操蹂躙の定義如何と堅苦しく出まして、これを先づ法律語で申しませうならば、先づ『不法に貞操權を侵害したる事實行爲』とでも申しませうか、よく新聞紙上の見出しに『貞操蹂躙の訴』なんて書いてありますが、これは俗語で裁判所に於ける訴訟上の名稱は『婚姻豫約違反ニ基ク損害賠償請求ノ件』となるのであります。

だから法律上に於ける貞操蹂躙の境界線を說明仕樣とすると勢ひ『婚姻の豫約とは何ぞや』と云ふことを說明しなければならなくなりますから、婚姻の豫約の說明は都合上一寸あと廻しに致まして常識上に於ける、私が漠然と考へてゐる貞操蹂躙の境界線から先きへ申上ます。

扨て如何なるものが常識上から考へて貞操蹂躙なりや？と申ますと、先づ第一が相手方の承諾なくして肉體を弄んだものとこれは法律上の言葉で申ますと所謂强姦と云ふ罪名で刑法上の問題になる奴ですな。これは誰が考へても立派な貞操蹂躙であつて刑法上の問題になるばかりでなく、これに依つて精神肉體上に損害を蒙つたとすると立派に民事上で損害賠償を請求する權利を發生すると私は思ひます。

第二は虛言、詐術其他の不法手段に依つて相手方の肉體を自由にしたもの、これが所謂法律上の言葉で云ふと結婚豫約不履行と云ふものゝ精神に觸れて來るところの貞操蹂躙の境界線で、わかり易く申ますと……

『お前は私の女房にしてやる』と云ふて關係をつけて同棲し或は同棲の事實なくともそれを樂しみに關係をつけて捨てたもの、其他廣い意味で云ふならば結婚後間もなく妻を弊履の如く捨てた事實、子無きが爲の離婚、夫が不品行なための離婚姑が家風に合はぬと追ひ出した事實は總て貞操蹂

蹟と見るべきで、入籍してゐた場合は勿論法律上正々堂々と損害賠償の請求が成立するわけでありますが、此場合、法律上の手續の未了な男女間では、如何に事實が雄辯に夫婦關係を證明しても、結婚の約束したことを證明しても、什うにもならなかつたのが、それではあまり、事實上と法律上とにギヤツプがありすぎると云ふので、大審院が大正四年一月二十六日法律の不備を補償して結婚豫約の效力と云ふものを認めて、眞面目な意味で性的交渉を結んだものを保護する意味で『結婚の豫約を爲したる者に對し國家は結婚を强制し得ざるも、男女の一方が正當の理由なくて其約に反し、結婚を拒みたる時は、相手が其約束を信じたるが爲め被りたる有形無形の損害を賠償する責任あり』と云ふ判決を下したので、當時のヂヤーナリズムはこれを貞操蹂躙に依る損害賠償と一口にかたづけて仕舞ひましたが、結婚豫約の範圍と云ふことが事實問題となるとなか〳〵面倒で、所謂貞操蹂躙の境界線なるものは常識上と道徳上と法律上では多少ギヤツプがなきにしもあらずであらうと考へられますので、比較研究する爲に二三法律上に於ける貞操蹂躙の境界線を申して見ませう。

（一）東京地方裁判所は大正七年五月十五日の判決で次の様に申してゐます『結婚の豫約を爲す事は一定の方式を必要とせざるも、當事者間に豫約が成立せし時は、習慣上これを確實にする爲め相互に結納の金錢物品を取替し、且つ結婚式を擧げて同棲するを普通とすが故に、苟も當事者間に結納を取替せ結婚式、同棲等の事實あらば當然結婚の豫約成立せるものと推斷するを妥當とす』

（二）大審院は大正八年六月十一日の判決で『結婚の豫約は事實上或種の儀式伴ふことありと雖も、之は唯、豫約の締結を表彰する社交的典禮たるに過ぎず、從つて何等の儀式を擧げず結婚を豫約したる場合に於ても其豫約は適法とす』

（三）京東控訴院は大正八年一月三十日の判決で、『結婚の豫約は當事者間に於て將來結婚を爲すべきことを約するに依りて、成立し、何等特別の方式を必要とせず、又結婚豫約に付き當事者が其の家にある父母の同意を得ることは必要にあらず』

と、判決してゐますから、これを綜合するとハツキリした答が出てこやうと思ひます。右三つ内で第三の判決文に依つて

見るとモウ常識上との間にギヤプが見出せず 只物的證據か證人の證言があれば無條件で結婚豫約の效力が認められますが、漠然と共同生活をして居て夫婦になると云ふ意志表示を缺いてゐた場合には結婚の約束なき共同生活は結婚の豫約として保護されないと云ふことになりますから、男女が氣まぐれで一緒になつたり、金錢と肉體を交換したりして捨てられても貞操蹂躪の問題は決して起らないのでありますから、世の中の風儀を正しくするには、刑法上で男の姦通を認めるよりも、民法上の結婚豫約不履行に基く損害賠償の判例を應用して、女が男子から肉を要求せられた場合には『私事貴殿と結婚する意思確實なる事此處に證明仕り候也』と云ふ一札を取つて置くと、男が惡意で遺棄した場合に早速その一札がモノを云ひ損害賠償の請求で男に復讐することが出來ますから總ての女が共同でそれを實行すると、男は忽ち破産することが恐いから品行を愼むと云ふ結果になりますし、近頃流行のモダーンガールに童貞を蹂躪されて歎いて居られるモダーンボーイ君も、反對に女から一札を取る、とらなければ性交をやらぬと云ふことにすれば、刑法上の姦通罪は削除して可なり、忽ちにして公の秩序善良の風俗が維持出來るものと私は考へます。イヤハヤたつた一杯の番茶に醉ふて、これは〳〵、私の虎の卷をすつかり公開して仕舞ひましたワイ。

救ひを求むる人々

（映畫）



青年……………ジョン・K・アーサー
乙女……………ヂョジア・ヘール
子供……………ブルース・ゲーリン

梗概

泥と水と、腐つた材木や、腐つた魚や、こはれた舟の破片が漂ふてゐる或港に、その海中の泥を浚ひ出すために絶えず動きつゞけてゐる巨大な浚泥機があつたこの巨大な浚泥機の下でおち合つた。三人の人間がゐる。

それは職に外れた一人の青年、泥と共に浚泥機が救ひ上げた一人の若い女、この巨大な機械の爲めにその兩親を奪はれた一人の孤子であつた

彼等は飢えてゐた、彼等はこのいくら浚つても盡きる事のない泥の世界から温い太陽の輝く町の世界をあこがれて一緒に町へやつて來た。

が町にも矢張泥があつた。さうして空腹が彼等を待つてゐた。

泥の男がパンを與へないで、彼に室だけを與へて吳れた。

空腹になれば食はなければならない。食ふ爲めには働かなければならない。青年には理想があつたけれども、仕事はなかつた。女には賣るべき最後のものがあつた。宿を借した泥の男が狙つたのは其處であつた。彼はずり拔けた靴下のやうに墮落した女どもに稼がせて食つてゐるのであつた。

最初の夜が來た。青年は女と子供をねかせて室の外へ行つて、扉に凭れてねむらうとする。と女はつか〳〵と出て行く。

『なぜ中で寢ないの。』

『そんな事をすると、あの人達が僕達を變に思ふだらう。私は惡い女だと御前を思はれたくない。』

『私しが好い女だらうが、惡い女だらうが、それが一體どうしたと云ふの、私は御前さんの天國とか道德とか云ふ窮屈なものに、すつかり倦いちやつたんだ。私の世話なんかいらないから仕事でも探しておいで、意久地なし』

青年は朝から町中をいくら探して も仕事はなかつた。小供はお腹が空いて溜らないと泣き出した。女は最後のものを賣らうと決心した。たそがれの窓ガラスを鏡に、一本のマッチを燃

ゝ、幸福を指し光輝く太陽に向つて。——

やして眉毛を染め窓から手だけを出して、靴下のすり抜けた女に口紅を求めた。

女は破れたショールを纏つて、慄えながら薄暗い町の一角に立つてゐた。一人の紳士が付いて來た。女は急に恐ろしくなつて、宿へ逃げ歸る。泥の男と、紳士とが女に迫つた、だが女はどうしても肯じなかつた。

泥の男は巧みなワナを作つた。

彼等は自働車で郊外の美しい自然の中へ運ばれて行つた。其處には『此處であなたの理想を實現しなさい』と云ふ、住宅會社のポスターが立つてゐた。

泥の男は女を木蔭に誘つて、巧みに挑み始めた子供が泣き出した。泥の男は腹を立て子供を蹴つた。青年はこの樣子を見て猛然と立つた。二人は烈しく爭つた。青年は遂々泥の男を『理想を實現しなさい』と云ふポスターに押し付けて擲り付けた。

が彼は單に泥の男を打つてゐるのではなかつた。港を街を泥を、殊に彼自らの卑怯な半面を、彼等をこゝまで引き落した總てのものを打つてゐるのであつた。

やがて勝誇つた青年と女と少年は互に肩を抱いて歩き出した。その頭を昂然と上げ、その眼は自信に輝き、その足は力に滿ちて泥を棄て



東京市設

託兒所及兒童相談所訪問記

村山文子

託兒所では

1、市內在住の貧困な家庭の
2、生後六ケ月から學齡までの子供を
3、毎日午前六時から午後六時迄（四月一日から十月卅一日までは午前五時から午後六時迄）
4、一日二錢宛の保育料で預つて
5、大體幼稚園程度の保育をします。

兒童相談所では

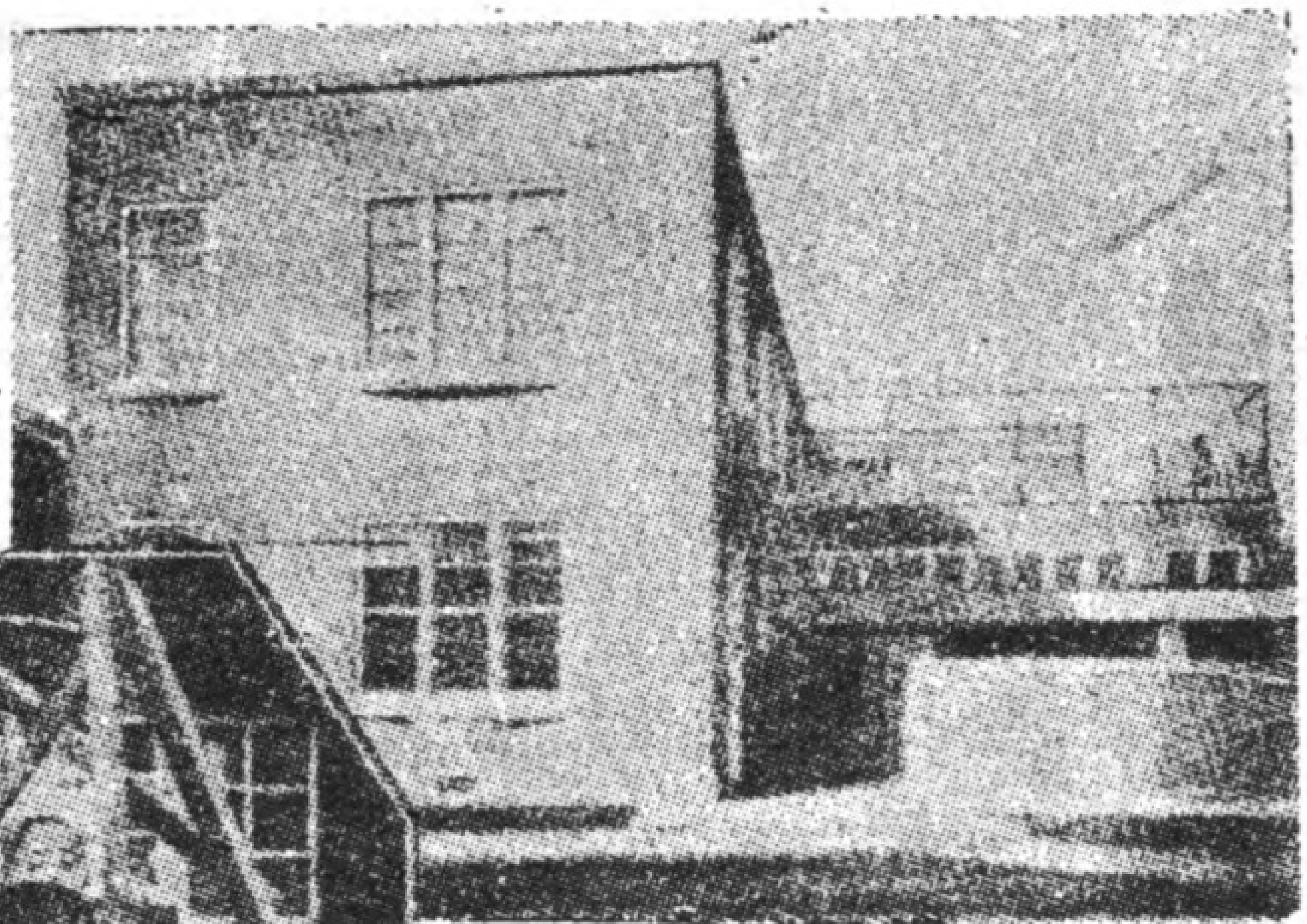
1、毎週二日午後一時から四時迄の間に無料で
2、乳兒及學齡迄の兒童の身體檢査をし
3、哺乳、保育等の相談に應じ
4、乳幼兒の疾病を未然に防ぎ
5、母親達に衞生上の知識を普及徹底させます

東京市で最も貧困な人達の多い所の一つに數へられて居る深川富川町の託兒場に見學に行く。市電富川町停留場で下車し、すぐ右折するとそこは軒並みの木賃宿で、仕事にあぶれたらしい勞働者が三々伍々狹い道をフラリ／＼と歩いて居る。角に居酒屋があるのを見ればまだ朝の十時と云ふに、コップ酒をアホッて居る人で大繁昌だ。この一劃だけで一日に一石からの酒の賣上げがあると云ふのも成程と首肯出來る。いきなり角から來て、どしんとぶつかつて行く土方風の男――何だか恐ろしい樣な陰鬱な氣持になつてしまつた。

でも子供達はみんな元氣な可愛らしい笑顏を以て迎へて吳れた。刺を通ずるとお忙がしい中にも拘らず御親切に色々と主任の村木先生は話して下さつた。現在一日平均八九十人の兒童が、此所で保育されるのであるが、その保護者は一番多いのが人夫次が職工行商商業を營む者女工雜役夫大工病職などで其他下駄の齒入れ、按摩納豆賣等もあり、兒童は男女とも五・六・七歲が一番

多く、三・四歳の幼兒の少ないのは一寸意外に思はれるけれど、それは託兒場に居た子供は小學校に入つてから成績がよいので親達が特にこの年齢の子供だつれて來るからだと云ふ事である。

とにかくこの邊では、子供達に毎日四錢（保育料お八つ）のお金を持たして託兒場につれて來る事も出來ない人が多くて、「今日はお金が無いから、かあちやんが行つてはいけないと云つたの」と云ふ子供もあると聞いて誰か涙なしに居る事が、出來やう。




託兒所相談所全景と遊戯中の兒童

それでも託兒場に子供を託けに來る親はよい方で大低の人が無關心にむしろ冷たい眼でこの様な施設を眺めて居る様であるけれど中には「かうして子供を見て頂けますから安心して働けます」と心から感謝して呉れる人も時々あるので、その時初めてこの仕事もほんとに無駄な事ではなかつたと思ふと云ふ先生の御實感もうかゞつた。

又出來る丈け色々な機會を利用して兒童の母親を中心として母の集りを催し、或はよい教訓的な映畫を見せ或は分り易いお話をしたりして、有益であると共に娯樂ともなる様な會をなして、母の愛を只本能的な無智なものから更に進んだ段階へ導き、苦しい生計の中に在つても一家共に和合し助け合つて眞の人生の喜びを味ふ事の出來る様にと努力して居られるさうであるが、これは特に研究し實行して頂きたい事である。

それから丁度折紙細工をして居る組と、自由畫を描いて居る組と、遊戯をして居る組とを參觀し、鼻をたらした子供達と一緒に暫く遊んだ。一人が側に來ると我も〳〵と集つて來て肩にぶら下る、手をひつぱる抱きつく、おぶさる、まるでつぶされ相な騷ぎ。でも愉快だつた。此所はバラックの狭い建物だけれど、お庭にはブランコも、滑り臺も、砂場もあり、何よりも花壇のあつたのは嬉しかつた。

可愛らしい紅雀は子供達のよいお友達――花と鳥とは何と云つても幼い者の驚異と憧憬の的である。

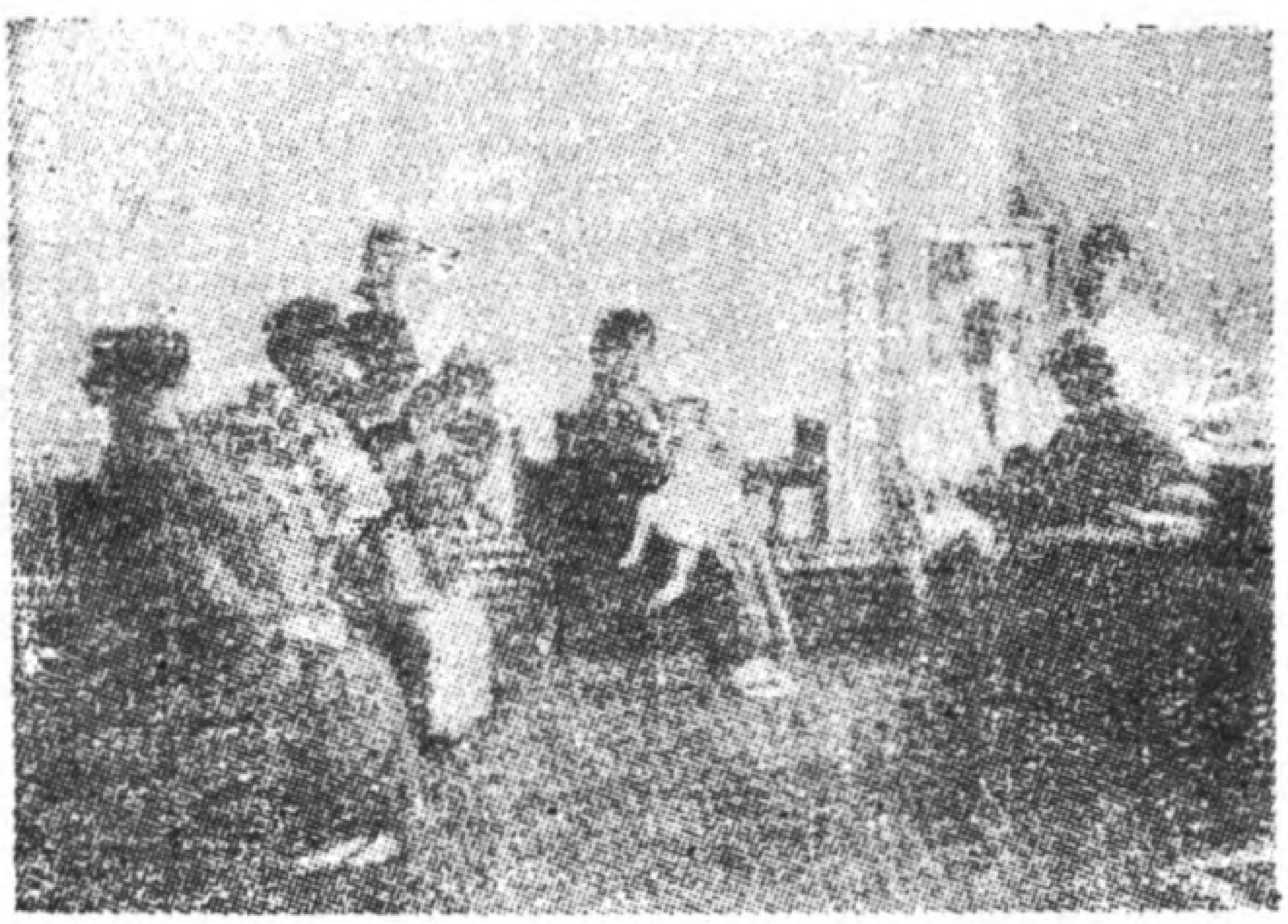
かうして皆が元氣に歌つたりとび廻つたりして居るのを見ると、又してもどうかこの人達の心から暗い影の取り去られる様に祈らずには居られなかつた、

× × ×

兒童相談所と云ふのは、よく簡易診斷所等と誤られるが、それは病兒のみを目的としたものでなくて、兒童の健康を增進し且つ病を未然に防ぎ、育兒上の注意や指導を母親に與へ、更に母乳營養の出來ない乳兒等には牛乳を配給してそのうすめ方等につ

いても一々親切に敎へ、又兒童の家庭を訪問してその家族の狀況住居及生活の狀態等に就いて細密に調査し懇切に援助と指導を與へるのである、「兒童を中心としてその家庭の向上を計り、更にその家庭を通して他の家庭をと云ふ樣に仕事を進めて行く方針である」と主任の廣瀨博士は語られた。そして更に熱心に云はれるには、「現在一般の人々は殆ど平常は自己の健康に無關心であるが、幼兒の場合にはこの無關心が實に恐ろしい結果となる事が多いのである。

一寸した不注意から病氣にならずともよい時に病氣になり又輕いものをも重くし更に取りかへしのつかない樣になつて始めて後悔したりする事があり勝ちではないだらうか。乳幼兒に於ては特に病氣にならぬ前の注意が必要なのであると云ふ事をもつと考へてこの相談所を活用して欲しい。相談所では兒童の健康についてあらゆる相談に應じ、適當な指導を與へ又看病の時には吸入の仕方、濕布浣腸の仕方に至る迄詳しく敎へ、育兒に關するあらゆる指導を受ける事が出來るし、又一月に一・二回位は體重身長胸圍など計つて、その成長をカードに記して貰へば樂しみにもなり、育兒日記の樣なものともなつてどんなにか有意義な事であらう。とにかくこの相談所がもつと認められ利用されて、育兒についての知識が增進されるならば、現在の乳幼兒、死亡率はずつと低下するであらうと信ずる」云々。



相談所に相談中の圖

そしてこれらの仕事が、私の思つて居たよりもずつと實際的に計劃され、着實に實行されて居る事を何よりも嬉しいと思つた即ち、小兒を襲ふ恐ろしい傳染病（ハシカヂフテリヤ疫痢など）の流行する時にはその兆候があらはれるとすぐ、それ〳〵の病氣について、その原因徵候手當豫防等を分り易い樣に書いたリーフレットを配布し、或は乳幼兒の正しい發育についても、姙產婦の爲にも、耳と目の兩方から知識を培ひ

且つ相談に來る人々には一々丁寧な指導を與へて居られる。色々お話をうかゞつて居る間にもあとから〳〵愛兒を負つた母親が來て、狹い室はすぐ滿員になつてしまふ（一日の相談は平均三十人から五六十人位）大きな火鉢を圍んで、お内儀さん達と話したり、カードの記入や家庭訪問票等について話して頂いたりしてから辭去した。

附記

富川町は特に貧困な家庭が多くて、これを以て東京市全般のを代表させる事は出來ないのですが、現在の制度では託兒場そのものが、「貧困なる家庭の爲に」設けられて居るのですから他の所もこれと似たり寄つたりであると思はれて差支ありません。しかしこれからは、この樣な施設が更に中產階級にももつと利用される樣にその目的に叶ふものが漸次設けられて參りませう。事實中產階級の生活は次第に切迫しつゝあります。

烙印されたる苦艱

ヴェラ・フィグネル手記
大竹せい抄譯

フィグネル（ヴエラ・ニコラエヴナ）は、一八五二年カザン縣に生れ、一八七六年から一八八二年まで『人民の意志派』の指導者として活動、一八八四年の有名なる「フィグネル裁判」で死刑の宣告を受けたが、後減刑されてシリセルブルグの要塞監獄に幽閉の身となつた。そこから一九〇四年にアルハンゲリスクへ移され、一九〇六年以來外國へのがれ亡命生活をなし、現在では自分の追想記等を書いて文筆生活をして居る。

右は人名辭典に記された、ごく大ざつぱなフィグネルに關する文獻である。

三十といふ人生の女ざかりから、後半生の凡てを、牢獄の中に削りとられた彼女——二十年といふ年月、世を隔てゝ生ける屍として過した彼女の如きは、婦人革命家多しと雖もその例を見ないのである。彼女は寫眞で見ると非常な美人である。あの聰明な双眸は死の壁を見つめて老ひ、ゆたかな瞳は獄鬼に吸はれ枯れすがれた。或は死し、或は狂ふ人々の群——その中に、靜かに冷たく生きて來た彼女は一九〇六年のロシア第一革命によつて外國へ脫れるの機を得た。彼女が革命婦人として堪えた生活苦は得難き幾多の記錄を生んだ。私は今、彼女の追想記「烙印されたる苦艱」の中の最初の頁に記された「家庭」から、つたない抄譯の筆を起さうとおもふ。

——家庭——

私は一八五二年六月の二十四日、カザン縣の、かなり富んだ。貴族の家に生れた。私の母エカテリーナ・フリストフォローヴナは、フイムスキー郡に六千デシヤチン（譯者いふ一デシヤチンは我が一丁餘り）の土地を持つてゐたテチユシス

キー郡の判事、クプリヤノフの娘であつた。彼女の父は、自分の事業をめちやくちやにして死んでいつたので、その相續人は、借金がしこたまあつたその遺産を拒否した方がいゝ位であつた。



私の父ニコライ・アレクサンドルヴチ・フイグネルは、林業學校で敎育を受け卒業後は、始めママドシスキー郡で、それからテチユシスキー郡で林務官となつたが、農奴開放の後に辭職して民事仲介人となり、さういふ役目が廢止されるまでその仕事をしてゐた。家族は夭折した二人の兄弟の他に、私とも子供は六人あつた。父母は非常に精力的な活動家で又肉體的にも頑健な、意志の強い熱情家であつた、その方面で兩親は我々に好い遺傳をつたへた。年長の私は、ロシアの專制制度との闘ひが最も盛んであつた時代に、革命運動に參加して死刑を宣告され、それからシリセルブルグの無期徒刑囚となつた。妹のリヂヤは工場勞働者の間に社會主義宣傳をやつてゐた革命團體の團員であつて、ミルヂナやピョトル・アレクセイフ等と一緒にその當時の社會に非常に大なセンセーションを起した「五十人裁判」事件に連座して、東部シベリアへ遠刑に處せられた。弟のピョトルは鑛山技師となつて、ペルムやウファの製鐵工場に務めボゴスロフスキー工場の支配人となつた。も一人の弟のニコライは有名なテノルの歌手となつた。彼は最初にオペラを組織して、自ら唄ひまた演じた許りでなく、二十五年の俳優生活中に多くの人を導いた。妹のエヴゲニヤは、一八八〇年の冬宮爆破事件に連座してシベリアに流された。更にも一人の妹オリガは、非常に才能があり精力的であつたが、醫師フロロフスキーに嫁し、夫が革命運動に參加した廉でシベリアへ流されると共に、彼女も一

緒に行つてオムスクで教化事業に携はり、夫の死後ペテルブルグでその仕事をつゞけた。なほ姉妹のリヂヤとエヴゲニヤはシベリアで、政治流刑囚のスタフェーヴイチとサージンに嫁した。彼等は皆精力的な教養のある革命家であつた。

× ×

以上で「家庭」の部は終つてゐる。彼女の幼少時代から女學校卒業するまでの委しい生活記錄はこゝには略さう。しかし十九才になつた彼女は、如何に智識にあこがれ、その時代として婦人の智識に對する慾求が、どんな障害にぶつかつたかを見やう。

――大學――舞踏室――

私は大學へ行きたかつた。が、兩親は私の志を飜へさせるために明るい生活の滿足を見習はせやうとて、カザン市の社交界へ伴れて行つた。

兩親はかなり進歩的な人間ではあつたが、周圍の習慣には勝てなかつた。家族のうちに若い娘があれば、それを「明るい社交界」へ伴れ出して人々を見せ、また人々に見せしめなければならなかつた。そこで私は父の親友であるカザン市のフィリツポフ家に預けられた。かうして私はカザンでフィリツポフ家の長男アレクセイ・ヴィクトロヴィチ――若い判事補と知り合ひになつた。其時まで私はかつて行つたこともなかつた劇場、それから貴族集會場や實業家クラブの舞踏會へ出掛ける時に、アレクセイは常に私の同伴者であつた。最初の大きな舞踏會へ私は悦んで行つたとは言へない。輕い衣裳を着て、白い靴を穿いて、白熱の瓦斯の下で舞踏場行きの準備をするとき、私は如何にそれをいやがつたか。廣い輝かしいオーケストラに伴れて幾十の男女の組が、それも私にとつては未知の、また何の興味もない人々が踊りくるつてゐる時、私は泣き出したい程の孤獨を感じた。然しアレクセイと、彼がそこですぐ私に紹介した數人の若者達は私を取り卷いた、私は間もなく怖しさと興奮を忘れて踊りの群に入つた。二度目からは、私はかうした社交界へ出ることに段々馴れて來た。

然しながら私達は間もなくカザンから田舍の靜寂へかへつて行つた。そして目まぐるしいやうな熱もぢきに冷めて行つた。

すこし經つとアレクセイは私達のところへ客に來た。彼は私の考へを理解しそれに同情した。私達は一緒に讀書し私が

大學に入るといふことについては、二人の意見は一致してゐた。私共二人が近づきになつたその一年がまだ終らない一八七〇年十月十八日に、私達は田舍の教會で結婚した。

それから數週間の後に私の父は死んだ。母は二人の妹と一緒に、その頃弟ピョトルとニコライが中學で勉强してゐたカザン市に移り、妹のリヂヤは女學校を卒業した、私はなほアレクセイと一緒に田舍に住んでゐた。

私の生活は結婚後も替らなかつた。大學へ入るといふことは定つたが、たゞ問題は、チュリッヒへ留學のための學資が一年か一年半の後でなければ整へられないといふことが殘されてゐた。私は家庭教師のおかげでかなり獨逸語を學んでゐた女學校卒業後母に買ひ與へられたシルレルやギョーテも讀んでゐた。大學への準備に私はアレクセイに敎はりながら獨逸語の稽古をつゞけ、殊に幾何や代數は其の頃の女學校で全く敎授してゐなかつたから大に勉强しなければならなかつた。その頃私はアレクセイに勤めを止めて一緒にスヰスへ行くことをすゝめた。私はもうその時犯罪といふものが、貧窮と虐待から起るといふ事を深く信じ、裁判官といふ役目にはあき足りなかつた。そこで、私はアレクセイに私の希望する——私が成らうとする同じ醫師になるか、でなければ自治會の仕事に働くやうにすゝめた。とう／＼私の意見が勝つて、アレクセイはつとめを止めて外國で醫學を學ぶために私と旅に立つことになつた。

ところが私達の外國行きは、親戚の間に賛否の意見がおこつて、なか／＼四年間の留學資を集めるのが困難であつたので、私は恰度女學校を卒業した妹のリヂヤと一緒にカザン大學へ入學する計畫をたてゝカザンへ出掛けた。

——レスガフト敎授——

叔父のすゝめで私は先づ、ペトロフ敎授の所へ行つた。叔父の言葉では、彼は女の高等敎育に同情を持つてゐるといふことであつた。が、ペトロフは病理學者であつたので他の方面から勉强を始めねばならぬと、私を化學の敎授マルコヴニコフと、解剖學のレスガフト敎授のところへ紹介した。マルコヴニコフ敎授は圓滿な善良な人物であつた。親切に私達の希望を聞き終つて、研究室に我々のために椅子を與へることに同意した。然しそれは、そこで男の大學生たちが勉强して居ない時だけ、といふ條件つきであつた、聽講を許すか許さ

ないかといふことは未解決のまゝ殘されてゐた。私達は、彼の言葉によれば、先づ實際の研究から始めなければならなかつた。

翌朝私は妹と一緒に、言ひつけられた通りに必要な書物と化學の藥品を持つて出掛けた。何か入れたり加へたり、沸かしたりしたが何にも了解はできなかつた。私達にとつては全く不可解な、お伽噺の謎を解くやうな學問であつた。

マルコヴニコフ教授は、私達が何をしてゐるかを尋ねるために一度も私達に近づいて來はしなかつた。教へもしなければ一ぺんも助言しないし、また私達が化學について一般に了解を持つてゐるかどうかをさへ知らうとはしなかつた。

私達は何を知つて居たらう？　何も知つては居なかつた。してゐることが何の役にもたゝないといふ事から絕望に到達する――私達は必要でない事をしてゐるといふことをはつきりと見た。だが、若い田舍の小娘達は辛棒づよく、沸かしたり、加へたり、今に不思議の謎が解けるだらうと期待してゐた。が、何にも來なかつた。

そこで私達はまた解剖學の方へ行つた。解剖學教室の主人はレスガフト教授であつた。階段を上つて教室へ入ると古ぼけた机が並んでゐた。机上には女と男、老人と若者の死骸が横つてゐた。他の卓上には人體の各個の部分、手、足、等々が並んでゐた。學生達はみんな白い上衣を着て研究にむちうになつてゐた。誰も私達に眼を向けなかつた。背の高い痩せた、陰鬱な、美しくない、男性的な婦人は助手らしく――他はみんな學生であつた。

……私達の前にはレスガフト教授が立つてゐた。彼はまだ三十二三歲であつた、彼は私達に非常に親しみをもち、教授がすんでから私達を自分の書齋へ伴れて行つた。そこで始めて彼から解剖學上のいろ／＼な智識を與へられた。私達は彼の處で勉强を續けた、彼の講義は非常に無味乾燥な問題までも生々として學生の頭腦に傳へられる熱を持つてゐた。彼はその頃の有名な外科學の大家、ペトログラド大學のグルーベル教授の愛弟子であつた。素朴で親切で親しみ深い性質をもつた彼は、若い學生達の尊敬の的であつた。

私達が漸く自然の現象の認識に對する最初の鍵を與へられやつと智識の泉まで達しやうとした時、私達の學課はフイに停止された。

ある朝、妹と一緒に解剖室へ行くと不思議なことには、机

の上に死體が無かつた。大學生達も居なかつた。レスガフト教授も居なかつた、ペトログラドからの電報でレスガフト教授は、永久に職を免ぜられたといふことであつた。なぜだらう？　このニウスは全く不可解なものであつた。

その後、特にレスガフト教授に親しんでゐた大學生等の說明した所によると、教授仲間から、彼が若い學生達に惡感化を與へるといふ密告が、ペトログラドへ齎らされた結果であるといふことであつた。それに憤慨して二三の教授も自分の講座を捨てゝ他の大學へ移つたし、學生等の多くもカザン大學を去つてペトログラドへ轉校するといふやうな事件が起つた。その頃、私は政治については全くうとかつた。この事件と國の制度とがどんな關係をもつてゐたかも解らなかつた。私の憤慨は、たゞ尊敬する教授を中傷した者の上にのみ、かけられた。私の勉學の計畫がすつかりぶちこはされてしまつたので、暗い氣持になつた。この先もこんなことがくり返されるかも知れない、といふ氣持は、ロシアを捨てゝ外國へ行く決心を愈々深めた。そこでは妨害するものはない。安心して學課を了へる事が出來るだらうと思はれたから。

レスガフト教授は若い妻と二人の子供を抱へて、何の貯へもなく家財を賣り拂つて、ペトログラードへ去つた。學生等は彼の家に集つて泣いた。私は妹と一緒に教授の家で、賣り拂はれた品々の中から、紀念のために、白い茶呑茶碗を買つた。その茶碗は永い間私の手に保存されてゐた。ある時シリセルブルグ監獄で看守が、それと同じやうな茶碗を私に與へた時、私はカザンにおけるレスガフト教授を憶ひ出して、懷しかつた。レスガフト教授がカザンを去つてから、私達はそこに何の未練もなかつたので、田舍へ歸つた。そして、一八七二年の春に、私達夫婦と妹リヂヤと三人で、私達を新しい廣い遠い〳〵生涯の地平線へと捕へて行つた其のチュリッヒへ向つて出發した。（續く）

巻末記

奥むめお

靜かな、まことに靜かな夜でございます。子供たちも寢靜まりました。

私はいま獨り、火鉢に倚りながら泌々と職業婦人社の既往を振返つてみます。

何分にも私たちは非常に微力でしたいと思ふ事もしなければならないと思はれる仕事も澤山にあるにも拘らず、それの何分の一の實行も出來ないまゝに五年と經ち、六年と經つて、こゝに第七年の春を迎へやうとしてゐますのはまことに慚愧に堪えないことでございます。

私はいつも自分みづから反省してかう思ひつゞけます。

『何といふ限りもなく深い人の好意であろう。身に過ぎた、この、人の好意、私を生かして呉れたのも、この仕事をこゝまで伸ばして呉れたのも、それは皆、この限りもなく深い多くの人々の好意の堆積でなくて何であろう』と。

そしてこの反省に鞭打たれ、勵まされ、慰さめられつゝ、職業婦人社の仕事の社會的意義について深い確信をもつ事の出來る私は、第二歩第三歩を踏み出して進んでゆくことが出來てゐるのであります。

蜜に集ふ蝶のやうに利のある處や榮譽の約束されてゐる處に集つて來る人は決して尠くないものであります。然しほんとうに欲しいものは、一緒に泣いて呉れる人、共々に苦しみを擔ひ合つてくれる人、そして心からの鞭でびし／＼と私たちを打つてくれる人ではありますまいか。

さういふ點で、私はいゝ友達を澤山に惠まれてゐる自分の喜びを、天に向つて感謝したい氣持で一杯でございます。

遙かに心を寄せて、職業婦人社の仕事のうまく發展してゆく樣にと念じてゐて下さる既知未知の人々、蔭から表から、私たちの仕事のために助力してゐて下さる人々、而して職業婦人社の内部にゐて一緒に働いてゐる人も十指に餘るのでありますが、みな、この困難な職業婦人社の仕事の下積みになつて、たゞ、この仕事の將來に繋ぐ大きな希望に自ら火と燃えつゝいそいそと働いてゐます。これは、全く、涙なしには考へられない深い／＼感謝であります。

去年もわが職業婦人社にとつて、まことにいゝ年でございました。今年も、もつと／＼いゝ年であれと心に念じ乍ら私はわが「婦人運動」第六卷第一號の編輯の結びと致します。

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部　貳拾五錢（郵税五厘）
半年分　壹圓四十錢
壹年分　貳圓八十錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和二年十二月卅日納本
昭和三年一月一日發行

東京市外中野町圍三二四四
發行編輯兼印刷者　奥むめお

東京市神田區淡路町二ノ三
印刷所　協營社

東京牛込區市ケ谷本村町四
發行所　職業婦人社
振替東京六四一六〇番

謹賀新年

山高しげり

鈴木誠治

高橋守平

岡荘吉

薄葉人

丸岡ひで

北岡寿逸

高群逸枝

加藤勘十

高良員倖

廣瀬菊枝

萩原寅子

岡本愛之助

中野初

馬島僴

山根眞治郎

謹賀新年

志垣寛

豊原又男

千葉亀雄

加藤武雄

笠原千鶴

堺利彦

中村イ以

長谷川真

塩谷那康子

古瀬安俊

草野薩子

清水禎子

下中彌三郎

安田つる子

山元亀次郎

高敏益多中

◇……近刊豫告……◇

千葉命吉先生著

哲學行脚 世界遍路

マーク・トウエン原著 村岡花子譯

王子と乞食

ギヨオ原著 西宮藤朝先生譯

義務と制裁無き道德

大石隆基著

素朴生活

◇**通信取次** 地方遠隔の讀書家の御便宜を計り、弊店出版物以外、市內各書店發行の圖書をも誠實迅速に御取次致します。御照會は必返信料封入又は往復はがきで詳細明瞭に御申越願ひます。

◇**御注文** 御註文は一切前金のこと(但、諸官廳郡市町村役場學校は捺印の上御申込あれば代金は着本後にてよろし)代金引換便は御申込の際豫め半額申受けます。御註文により發送致しました品は不完全でない限り取換返品等一切御斷り致します。

◇**御送金** 御送金は振替貯金口座「東京二九六三九」へ御拂込になれば僅少の料金で送金も通信も出來そして一番安全であります。御都合で爲替及び郵券代用(必一割增)でも差支ありません。

◇**郵便料金** 近來郵便物の遲着紛失等應々有之相互の迷惑尠からずこれが事故を避くる爲御送本は總て書留便と致しました。本目錄の郵稅は右書留料を含有してあることを御諒承願ひます。

株式會社 平凡社營業部

東京神田駿河臺下・振替東京二九六三九番

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和二年十二月三十日印刷納本
昭和三年一月一日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動

第六卷第一號（定價二十五錢）